



令和7年度  
静岡県済生会事業報告書

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部静岡県済生会

# 済生会 基本原則

社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会は、済生勅語にみられる「施薬救療」の精神を承けて済生の実を挙げ、社会福祉の増進を図ることを目的として設立された。

以来、全国にわたり医療機関及びその他の社会福祉施設等を設置して定款に記された事業を行っている。

## 令和7年度 静岡県済生会 経営方針

### 済生会の理念と役割の実践

支部理事会を意思決定機関とし、変化する社会経済状況や経営環境に的確に対応しつつ、安定した経営基盤を確立・強化するとともに、「施薬救療」の具現化と社会的使命をより一層発揮するため、「第3期中期事業計画」の折り返しとなる7年度にその進捗と見直しを図り着実な推進に努める。

#### 1 済生会ブランドの構築のために

物価上昇傾向は続くことが予想される経済展望において、生活保護申請も増加傾向となる中、「施薬救療」の精神に基づき無料低額診療事業の一層の推進と生活困窮者への支援事業の充実並びに医療・福祉サービスの積極的な推進を図る。SDGsやソーシャルインクルージョンの理念とも合致するこの事業へ済生会独自の資格制度である「済生会地域包括ケア連携士」を中心に職員の理解を深め、幅広くかつ積極的に実行することにより済生会のブランドの確立を目指す。

#### 2 わが国最大の医療・福祉団体としての活動と役割

生活に密着した心温まるそして切れ目のない医療・福祉サービスを提供するために必要かつ密接な連携に先導的な役割を果たしていく。特に、今後の我が国のこの分野において最重要課題とされる地域包括ケアの形成に向けて、本支部の有する資源を効果的に活用し、連携を図る取組みを進める。

#### 3 経営基盤の強化

「施薬救療」の精神の具現化等本支部の社会的使命を果たしていくためには健全な経営を確保していくことが不可欠である。医療報酬・介護報酬は、団塊の世代（1947～1949生まれ）が後期高齢者になることから抑制傾向にあり、厳しい経営環境の中でも、支部を挙げて経営基盤の強化に取り組み、本支部事業の持続的発展に努めていく。

#### 4 行政・関係団体・地域住民等外部との連携・協力

地域における医療・福祉の需要に応えるため、行政や社会福祉協議会等の医療・福祉団体、さらには地域住民との連携・協力などの仕組みを形成し、地域ネットワークのキーステーションとしての役割を担う。大規模災害発生時にも、その役割を率先して担う。

#### 5 労働力人口の減少が予想される中でも、「施薬救療」の精神を実践する「済生会人」の育成から良質な人材確保と離職防止に努め、サービスの向上及び組織体制の強化を図る。

#### 6 ガバナンスの確立とコンプライアンスの徹底を図るとともに、危機管理体制の万全な備えに一層努める。

# 目 次

○	令和7年度事業報告	頁
1	静岡県済生会支部事務局	1
2	静岡県済生会監査室	8
3	静岡済生会総合病院	10
4	静岡済生会療育センター令和	14
5	静岡医療福祉センター成人部	20
6	静岡医療福祉センターライトホーム	23
7	静岡市発達障害者支援センター	25
8	伊豆医療福祉センター	27
9	川奈臨海学園	31
10	静岡市心身障害児福祉センターいこいの家	35
11	小 鹿 苑	39
12	小鹿なでしこ苑	44
13	静岡市桜の園	47
14	静岡市心身障害者ケアセンター	52
15	ワーク春日	55
16	静岡済生会看護専門学校	58
17	静岡済生会訪問看護ステーションおしか	60

※各記載事業の記号は次のとおりです。

①・・・指定管理による事業

②・・・自治体からの委託事業

**基本理念**

済生会創立の「施業救療」の理念の下、静岡県済生会の各施設の連携を図り、その総力を挙げて質の高い医療・福祉サービスを提供し、安心・安全な地域医療・福祉の実現に寄与する。

**令和7年度目標及び結果**

**目標1 安心・安全な地域医療・福祉の増進**

(1) 病院及び各施設と連携したなでしこプラン（生活困窮者支援事業）の積極的推進  
 目標数：5,940件（内訳：5,412名、328回、200着）

(2) 静岡県済生会地域包括ケア推進方策の検討

- ・済生会地域包括ケア連携士を中心とした相談会定期開催や地域貢献活動への支援

**結果** (1) 令和7年度計画に対しての実績6,060件（内訳：5,506名、319回、235着）

(2) 済生会地域包括ケア連携士を中心に、「医療・福祉なんでも相談会」の開催、制服リユース回収への協力、子ども食堂及び出前講座を開催した。

**目標2 各施設の円滑かつ安定的な運営支援**

(1) 施設整備や事業推進上の課題解決等に係る支援

- ・建物の老朽化等ハード面に合わせて業務内容等も含めた施設の将来構想

(2) 職員研修や人事評価制度等の人材育成の充実・強化

- ・体系的な職員研修の構築、階層・職種毎の研修の開催
- ・人事評価制度の運用継続

(3) 適切な会計経理処理の確保と経営改善のための支援の強化

- ・公認会計士による指導
- ・施設長等管理者への会計経理研修会の開催

**結果** (1) 「静岡医療福祉センターの今後の方針を検討する会」による建物等含めた今後の在り方、将来構想についての検討を継続した。

(2) 「SWAPプログラム（職員交流制度）」を静岡済生会療育センター令和、伊豆医療福祉センター間で実施した。  
 階層別研修は、リモートも含めての開催となった。

(3) 本部定期監査の結果を踏まえ、公認会計士の指導を受け、適正な会計処理に努めた。  
 ・7年度4月から7月の収支状況を踏まえ、収支差がマイナスとなっている施設を対象に9月にヒアリングを実施し、現状の把握および下期に向けた課題の抽出を行い、経営改善に向けた取組に繋がった。

**目標3 医療・福祉の人材確保**

- ・法人スケールを生かした多種多様な人事異動制度（体験異動・交流人事）の促進
- ・身体とこころの不調の早期発見と対応（支部事務局による採用後面談の実施等）

**結果** ・主に新卒採用者職員及び施設間異動した職員に対して、採用後概ね半年経過した時点でフォローアップ面談を実施。身体とこころの不調の早期発見に努め、業務へのモチベーションの維持・向上に繋がられた。

・令和8年度に向けて介護職7名、保育職4名、相談職3名、事務総合職6名を採用した。  
 （採用試験13回、法人説明会23回実施）

総合病院では特定技能実習生4名を令和7年度から採用となった。

**目標4 静岡県済生会事業の積極的広報による市・県民との信頼関係の構築**

- (1) 病院及び各施設の情報発信の促進
- (2) 施設間連携の取組みや地域住民との連携・交流事業の情報発信
- (3) 大規模災害発生時の支援拠点としての役割

**結果** (1) インスタグラム・LINE 等 SNS を活用し、施設ごとに特色のある情報発信に努めた。  
 (2) 小鹿なでしこ苑では、CSW（コミュニティソーシャルワーカー）を配置し、地域ミニデイサービス（Sデイ）、サロン等での支援を通じ住民との連携・交流に努めた。

**(1) 支部事務局運営事業**

社会福祉法人<sup>恩賜</sup>静岡県済生会の法人管理並びに運営事務について、次のとおり事業を行った。

**ア 支部理事会の開催・・・6回開催(8) ※議案一覧は5～6ページに掲載**

	開催日	場所
第1回	令和7年5月14日	静岡済生会総合病院
第2回	令和7年7月23日	グランディエールブクトーカイ
第3回	令和7年9月24日	〃
第4回	令和7年11月26日	静岡済生会総合病院
第5回	令和8年1月28日	グランディエールブクトーカイ
第6回	令和8年3月18日	〃

**イ 諸会議の開催**

会議名称	回
・支部事務局会議	14(14)
・支部執行会議	6(6)

医療施設及び社会福祉施設等の有機的な連携を図るための連絡調整

会議名称	回
・静岡県済生会地域包括ケア委員会	5(5)
・施設連携懇話会	0(0)
・静岡医療福祉センター検討委員会	0(0)
・静岡医療福祉センターの今後の方針を検討する会	34(14)

**ウ 済生会本部等との連絡調整**

会議名称	回
・支部長会議（本部）	2(2)
・済生会関東ブロック会議（群馬県支部）	1(1)
・全国済生会支部事務責任者会議（長崎県支部）※欠席	1(1)
・済生会障がい者就労支援協議会（新潟県支部）※ワーク春日参加	1(1)

エ 第三者委員会の運営に係る業務・・・1回(1回)

担当部署	開催日	内容
総務管理課 第1回	令和8年3月27日	会場：静岡済生会総合病院 議題：「社会福祉施設における苦情処理の概要説明」 小鹿苑 1件 ※法人ホームページに記載予定

オ 職員研修事業の実施

担当部署	開催日	内容
企画課 第1回	令和7年6月25日	「業務新人職員研修」 ・おもてなしのマインドとスキル 7施設10名(10施設16名)
企画課 第2回	令和7年8月29日	「法人内勉強会兼相談業務職員研修」 ・法人内連携について 9施設23名(12施設24名)
企画課 第3回	令和7年10月24日	「業務中堅職員研修」 ・チームの力を最大化する！中堅職員のためのメンバーシップ実践研修 6施設7名(8施設17名)
企画課 第4回	令和7年12月12日	「業務主査・主任職員研修」 ・チームリーダーの役割を再認識する ～チームと自分を成長させるために～ 6施設15名(10施設13名)
企画課 第5回	令和8年2月2日	「業務副主任職員研修」 ・チームの力を最大化する！中堅職員のためのメンバーシップ実践研修 10施設13名(9施設14名)

カ 機関誌定期発行による情報発信 「しぶだより」年3回の発行

号数	発行日
No. 36 4月号	令和7年5月7日
No. 37 10月号	令和7年10月6日
No. 38 1月号	令和8年1月8日

キ 法人の管理運営に係る業務(会計事務所等による会計監査及び監事監査)  
対象・・・全施設

	開催日	対象
会計事務所および監査人による会計監査	令和7年4月21日、 22日、23日	全施設
監事監査	令和7年4月25日	全施設
現地監査	未実施	年3～5施設を予定

・行政機関（静岡県、静岡市）による指導監査への立会い

## （２）生活困窮者支援事業

なでしこプラン（生活困窮者支援事業※7ページ参照）及びなでしこプラン以外の公益的活動を病院、各施設とともに推進、展開した。

## （３）静岡県済生会職員共済制度事業

職員及び家族の福利厚生の上昇を図るため、各種給付を実施、実績は次のとおりであった。

事業名	令和7年度		令和6年度	
	人数(名)	決算額(円)	人数(名)	決算額(円)
退職共済事業給付事業	29	92,627,756	25	78,527,895
医療共済給付事業	4,656	24,022,233	5,317	37,590,099
職員共済制度資金貸付事業	0	0	0	0

## （４）施設等支援事業

### ア 組織運営上の課題を抱えた施設の将来構想検討に係る支援

- ・静岡市中心身障害児福祉センターの指定管理更新申請
  - ・・・5期20年に亘る実績とノウハウから醸成されたご利用者及びご家族との信頼関係を生かし、さらに良質なサービスの提供を目標に掲げ申請。12月プロポーザル、同月指定管理者候補者として選定。8年3月静岡市議会に指定管理者としての議決を得た。
- ・福祉施設・・・調理業務直営により採用困難な調理員を補うべく施設職員出向等調理業務支援の調整を図り、食事を提供した。  
事務職員欠員による事務業務の業務支援を行った。

### イ 事務業務改善の推進

複数施設間における共通事務の一元化に向けて、給与システムは全施設で共有しており支部事務局の管理となっている。また、人事・労務システムの共有ツールとして、「スマート HR」は16施設中10施設で導入済み。未導入施設の導入を進めるとともに、勤怠情報の共有方法について検討していく。

令和7年度支部理事会議案及び報告事項について	
<b>第1回 令和7年5月14日（水） 静岡済生会総合病院 地下1階 講堂</b>	
第1号議案	令和6年度社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会事業報告について
第2号議案	令和6年度社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会決算報告について
第3号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会第3期中期事業計画の一部改訂について
第4号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会支部理事の委嘱について
第5号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会第三者委員の選任について
第6号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会施設長等の任免について
第7号議案	なでしこ保育園病児病後児保育室運営規程の制定について
報告事項ア	令和6年度下半期資金運用状況報告について
報告事項イ	障害福祉サービス事業者等運営指導の実施結果について
報告事項ウ	私立専修学校実態調査の結果について
報告事項エ	令和7年度静岡県済生会支部理事会開催予定について
報告事項オ	報道等で見ると静岡県済生会
報告事項カ	令和7年度新任施設長の紹介について
<b>第2回 令和7年7月23日（水） グランディエールブクトーカイ 4階 ワルツ</b>	
第1号議案	令和7年度静岡県済生会事業計画の一部改訂について
第2号議案	令和7年度静岡県済生会施設整備計画の変更について
第3号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会就業規則の一部改正について
第4号議案	静岡済生会療育センター令和の各事業所における運営規程の一部改正について
第5号議案	小鹿苑ケアプラン部運営規程の一部改正について
報告事項ア	大石新任支部理事の紹介
報告事項イ	なでしこ保育園病児病後児保育室運営規程（修正）の制定について
報告事項ウ	有価証券の売却について
報告事項エ	報道等で見ると静岡県済生会
<b>第3回 令和7年9月24日（水） グランディエールブクトーカイ 4階 ワルツ</b>	
第1号議案	令和7年度静岡県済生会事業計画の一部改訂について
第2号議案	独立行政法人福祉医療機構医療貸付事業による長期運営資金借入の承認について
第3号議案	令和7年度静岡県済生会収支予算の補正について
第4号議案	指定管理者の指定に係る申請について
第5号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会規則の一部改正について
第6号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会職員の育児及び介護休業等に関する規程の一部改正について
報告事項ア	伊豆医療福祉センター60周年記念式典報告
報告事項イ	報道等で見ると静岡県済生会

<b>第4回 令和7年11月26日(水) 静岡済生会総合病院 地下1階 講堂</b>	
第1号議案	令和8年度静岡県済生会施設整備計画について
報告事項ア	静岡済生会総合病院半期決算報告について
報告事項イ	令和7年度上半期資金運用状況報告について
報告事項ウ	令和7年度指導監査の実施結果について(川奈臨海学園)
報告事項エ	土砂災害及び洪水浸水の被害想定について(静岡市桜の園)
報告事項オ	報道等で見ると静岡県済生会
<b>第5回 令和8年1月28日(水) グランディエールブクトーカイ 4階 ワルツ</b>	
第1号議案	令和8年度社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会事業計画について
第2号議案	令和8年度社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会収支予算について
第3号議案	令和8年度社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会職員定数について
第4号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会支部役員の選任について
追加議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会支部長候補者の選任及び推薦について
報告事項ア	令和7年度済生会内部監査の指摘事項に対する対応状況について
報告事項イ	令和7年度指導監査の実施結果について (小鹿苑、静岡済生会療育センター令和、静岡医療福祉センター成人部、静岡市桜の園)
報告事項ウ	令和7年度運営指導結果に係る改善計画について(小鹿苑)
報告事項エ	報道等で見ると静岡県済生会
<b>第6回 令和8年3月18日(水) グランディエールブクトーカイ 4階 ワルツ</b>	
第1号議案	静岡済生会総合病院短期運営資金借入の承認について
第2号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会支部理事の委嘱について
第3号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会施設長候補者の選任及び推薦について
第4号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会施設長等の任免について
第5号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会規則の一部改正について
第6号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会組織規程の一部改正について
第7号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会就業規則の一部改正について
第8号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会給与規程の一部改正について
第9号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会セクシュアルハラスメント及び妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントの防止に関する規程等の一部改正について
第10号議案	社会福祉法人 <sup>思賜財団</sup> 済生会支部静岡県済生会事務決裁規程の一部改正について
第11号議案	伊豆医療福祉センター各事業における運営規程の一部改正について
第12号議案	静岡済生会看護専門学校学則の一部改正について
報告事項ア	済生会会計監査人法定監査の指摘事項に対する対応について
報告事項イ	障害福祉サービス事業者等の運営指導の実施結果及び是正・改善計画について
報告事項ウ	報道等で見ると静岡県済生会

第4次なでしこプラン(令和7年度)

令和7年度計画	令和7年度実績
5,940	6,060

(単位:名)

施設名	事業名	令和7年度計画	令和7年度実績	
静岡済生会総合病院	社会福祉施設等健康診断支援事業	900	1,034	
	保護観察所等刑余者健診・相談事業	10	8	
	児童・ひとり親家庭等健康診断・相談事業	30	23	
	生活困窮者等健康診断・相談事業	100	130	
	外国人等健康診断・相談事業	100	103	
	生計困難者等に対する日用品及び交通費等の支援事業	15	9	
	外国人医療通訳支援事業	200	157	
	長期療養者就労支援事業	15	13	
	無料健康相談事業	100	68	
	支部内各施設における無料健康相談	10	0	
	無料インフルエンザ予防接種事業	10	5	
	周知・啓発活動	220	162	
	静岡済生会療育センター令和	障害児療育講座	70	55
静岡医療福祉センター成人部	無料健康相談	6	4	
伊豆医療福祉センター	無料健康相談	15	14	
川奈臨海学園	保護観察対象者等が行う社会貢献活動の受入れ	16	0	
	施設退所者の健康診断補助事業	2	0	
小鹿苑	高齢者等緊急受入れ事業	3	0	
	周知・啓発活動	240	387	
小鹿なでしこ苑	認知症カフェ(等(ウエスの会含む))	84	180	小鹿なでしこ苑単独事業
	介護相談	0	13	
	外国人通訳支援(外国人診療時の通訳支援)	3	0	
	しずおか防犯パトロール(ながら防犯パトロール)	300	287 ※	(単位:回)
	青色防犯パトロール	48	30	
	Sデイ、カフェ、サロンの支援	2,747	2,030	小鹿なでしこ苑新規事業として追加
	認知症サポーター養成講座	20	105	
	地域防災支援	20	26 ※	(単位:回)
	就労支援(サポステ)	8	6 ※	(単位:回)地域若者サポートステーション
	医療福祉のなんでも相談会(新規追加)	30	0	
	学生服バンク事業	200	235 ※	(単位:着)
	子ども食堂事業	300	556	法人内各施設地域包括ケア連携士及び関係各団体との協働事業
	出前授業事業	100	398	
静岡市桜の園	障害者緊急受入れ事業	2	0	
	少年院在院者奉仕活動実習受け入れ事業	16	22	
なでしこプラン対象者数合計		5,940	6,060	

## 2 静岡県済生会監査室

コンプライアンスの遂行と説明責任に対する社会的要請が高まる中で、社会福祉法人においても内部統制システムの整備と適切な運用が強く求められており、これまで以上に業務チェック機能を果たす内部監査の重要性が高まっている。

監査室は、引き続き関係法令、通知等に基づき施設の事務処理及び運営等が適正に行われているかどうかを明らかにし、必要な指導及び是正改善等を行うために下記の監査を実施した。

### (1) 社会福祉法人<sup>静岡県</sup>済生会支部静岡県済生会監査規程に則って次の監査を実施

- ①定期監査 時期及び内容を定めて計画的に実施。
- ②決算監査 毎会計年度終了後、決算役員会前に実施。

#### ・定期監査・

施設名	監査日
川奈臨海学園	令和7年7月1日
静岡市桜の園	令和7年11月 (書面監査)
小鹿苑	
静岡済生会療育センター令和	
静岡医療福祉センター成人部	

#### ・決算監査・

施設名	監査日
会計事務所による会計監査	令和7年4月21日、22日、23日
監事監査	令和7年4月25日

### (2) 行政機関等による指導監査及び運営指導等への立会

#### ・静岡県・静岡市による指導監査

施設名	監査日	実施機関
川奈臨海学園	令和7年7月15日	静岡県
小鹿苑	令和7年11月11日	静岡市
静岡済生会療育センター令和	令和7年11月12日	静岡市
静岡医療福祉センター成人部	令和7年11月14日	静岡市
静岡市桜の園	令和7年11月18日	静岡市
なでしこ保育園(書面監査)	令和8年3月10日	静岡市

#### ・静岡県・静岡市による運営指導

施設名	監査日	実施機関
小鹿苑	令和7年11月12日	静岡市
静岡市心身障害児福祉センター「いこいの家」	令和8年1月13日	静岡市
伊豆医療福祉センター	令和8年2月25日	静岡県

・静岡県・静岡市保健所立入検査

施設名	検査日	実施機関
静岡済生会総合病院	令和7年9月22日	静岡市保健所
伊豆医療福祉センター	令和7年11月10日	静岡県東部保健所

・養成施設指導調査

施設名	監査日	実施機関
静岡済生会看護専門学校	令和7年8月20日	静岡県地域医療課

(3) 済生会本部による内部監査等への立会

・済生会本部による内部監査

施設名	監査日
川奈臨海学園	令和7年9月29日
伊豆医療福祉センター	令和7年9月30日
静岡市桜の園	令和7年10月1日
ワーク春日	令和7年10月1日
静岡済生会療育センター令和	令和7年10月2日
静岡医療福祉センターライトホーム	令和7年10月2日
静岡医療福祉センター成人部	令和7年10月2日
小鹿苑	令和7年10月3日
小鹿なでしこ苑	令和7年10月7日
訪問看護ステーションおしか	令和7年10月8日
静岡済生会看護専門学校	令和7年10月8日
静岡済生会総合病院	令和7年10月9日
支部事務局	令和7年10月10日

・システムレビューフローアップ

施設名	監査日	実施機関
静岡済生会総合病院	令和7年7月～12月	済生会本部デジタル推進課

### 3 静岡済生会総合病院

#### 基本理念

私達はあたたかい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します。

#### 令和7年度目標

##### 1 「高度急性期」を担う病院 「がんトータルケア」・「周産期医療」・「心血管疾患治療」の推進

###### 強固な経営基盤の構築

- ・ 高度急性期を担う病院として、医療ニーズに合った適正な人員配置・医療機器の整備に努める。
- ・ 新入院患者数、手術件数、紹介患者数、逆紹介患者数の増加に努める。
- ・ クリニカルパス適用数・率向上に伴う平均在院日数の適正化（DPC期間Ⅲ・Ⅲ超え患者数の減少、DPC期間Ⅱ満了日での退院数増加に伴う病床稼働率の向上）に努める。
- ・ 医療材料費や医薬品費、業務委託費や保守料など、各項目を精査する場を設置し、細かな支出削減に努める。
- ・ 長期的視野に立った施設設備の更新及び活用による費用の削減に努める。

###### 新入院患者確保に向けた取り組みの確実な実行

- ・ がんトータルケア：「治す医療」と「支える医療」の充実を目指す。
- ・ 周産期医療：助産師の確保を進め、新入院患者増を図る。
- ・ 心血管疾患治療：手術数・検査数の増加に努める。
- ・ 診療所・高齢者施設との関係強化に向けた訪問や地域への各種情報の発信等、積極的な広報活動を実行する。

##### 2 患者さんに優しい病院

- ・ 療養環境の充実、会計待ち時間の短縮、接遇の質の向上などを進め、CS向上を目指す。

##### 3 ソーシャルインクルージョンの根付いたまちづくりへの寄与

- ・ 障害者雇用率 2.7%以上を目指す。
- ・ 無料低額診療、生活困窮者支援事業を推進する。
- ・ 医療・福祉施設に限らず、大学や企業など地域における様々な機関との協働を行う。

##### 4 職員が「働きやすい」病院

- ・ 医療ニーズと確保人員とのバランスを図り、職員が働きたくなるような職場環境整備に努める。
- ・ 新設のウェルネス（職員健康推進）センター機能を充実させるなど、人事課も含めて相談しやすい環境整備を進める。
- ・ 各職種において、各種学校との連携強化（実習・見学の積極的な受け入れ）を進めるなど、必要人員確保に向けリクルートの強化に努める。
- ・ 標準化、効率化を図るため、医療DX導入に積極的に取り組む。
- ・ 職員の健康確保支援や福利厚生充実を図る。
- ・ 働き方改革へ適切に対応する。

静岡県中部地域の中核病院（昭和 23 年 6 月 1 日開設）として、入院診療を中心とする診療の充実に努めるとともに、救命救急センター、周産期センター、地域災害医療センター、健康管理センターのほか、地域福祉サービス事業等の運営、活動を積極的に進め、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進を図った。

地域連携を一層推進するほか、医療の質及びサービスの向上を図り、急性期病院として更なる地域貢献ができる医療提供を目指した。

なお、病院経営については、新入院数及び入院単価の向上、医療従事者の確保、支出削減に努め、安定した財源確保を図るとともに、患者、連携医等へのサービス向上を進めたものの、状況の好転には至らなかった。

### （１）病院運営事業

病床の効率的な運用（令和 7 年 9 月 1 日に許可病床 61 床を返還）を図り、各診療科の安定した体制の維持に努めた。救命救急、周産期、心血管疾患等地域のニーズに対応するとともに、職員採用活動を充実させ安心・安全な運営体制を維持した。新入院数は前年度を若干下回り、在院日数の短縮と併せて一日平均入院患者数は減少した。

区 分	令和 7 年度計画・目標	令和 7 年度実績	令和 6 年度実績
許可病床数	460 床	460 床	521 床
一日平均入院患者数	380 名	360 名	376 名
一日平均外来患者数	900 名	902 名	901 名

※静岡済生会療育センター令和除く

### （２）救命救急センター・地域災害医療センター事業等

救急患者総数は目標には及ばなかった。救急搬送数は前年より増加したものの、入院患者数は減少した。また、災害派遣医療チーム (DMAT) の増員を図り、大規模災害発生時の医療チームの派遣に機動的に応じられるよう努めた。

区 分	令和 7 年度計画・目標	令和 7 年度実績	令和 6 年度実績
救急患者数	15,000 名	13,576 名	13,688 名
うち入院患者数	4,300 名	4,029 名	4,326 名

### （３）臨床研修事業

臨床研修病院として研修医を受け入れ、臨床実務を通じて各科指導医による基本的知識、技術の習得などの臨床研修を行い医師としての資質向上に努めた。マッチングではフルマッチを果たした。なお、令和 5 年度、令和 7 年度にはそれぞれ 2 名ずつのたすきがけ研修医を浜松医大から受け入れている（※印）。

区 分	令和 7 年度計画・目標	令和 7 年度実績	令和 6 年度実績
受入研修医数	24 名	24 名 +2 名※	24 名 +2 名※

### （４）なでしこ保育園運営事業

なでしこ保育園（平成 27 年 4 月開園）は 10 周年を迎えた。こどもの健やかな成長に資するとともに子育て中のご家族を支え、これまで以上に“頼りになる”保育園となれるよう充実した運営に努めた。

区 分		令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
事業所内保育事業		110名/日	66名/日	70名/日
病児・病後児保育事業		延べ 275名	延べ 224名	延べ 10名
病児・病後児送迎		延べ 36名	延べ 8名	-
放課後児童健全育成事業	通常期	6名	7名	5名
	長期休暇	21名	26名	26名

#### (4-1) 医療従事者確保対策事業（共同枠：当院と地域の医療機関）

子育て中の医療従事者（医師・看護師・薬剤師）の離職防止と潜在医療従事者の再就職を促進できるよう、安心・安全で質の良い保育を提供した。

(再掲)		令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
事業所内保育事業（共同枠）		90名	50名	53名
放課後児童健全育成事業	通常期	6名	7名	5名
	長期休暇	21名	26名	26名

#### (4-2) 地域保育事業（令和7年7月開始）

地域の保育需要に応えるため、一般のお子さんを対象に、保育（対象は乳児のみ）と、病児・病後児保育を提供した。

病児病後児保育は従前なでしこ保育園の園児と当院の医師・看護師・薬剤師の子のみを対象としていたが、令和7年度からは静岡市内の一般のお子さんも対象とした。また、病児の送迎サービスも新たに行った（駿河区の安倍川以東対象）。

(再掲)		令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
事業所内保育事業（地域枠）		20名	16名	17名
病児・病後児保育事業		延べ 275名	延べ 224名	延べ 10名
病児・病後児送迎		延べ 36名	延べ 8名	—

#### (5) 地域福祉サービス事業

社会福祉法人が運営する総合病院として、各医療福祉相談活動を通じ、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進など社会福祉の向上に努め、患者支援活動を積極的に進めた。

区 分	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
医療相談	8,000件	8,848件	8,814件
心理相談	4,500件	4,763件	4,362件

#### (6) 無料低額診療事業

生計困難者を対象に、無料または低額な料金での診療、無料の健康相談、保健教育等を行った。診療活動においては、生活保護患者以外の生計困難者について関係機関と連携の上、対象者への支援拡大に努めた。

区 分	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
実施率	10%	6.9%	6.7%
対象者延べ数	36,081名	25,736名	25,650名

### (7) 生活困窮者支援事業

無料低額診療対象者のみならず、生活困窮者全般を対象に、無料健康相談や無料または低額な料金での検診等を行った。無料低額診療事業とあわせて、支部内の他施設も含め、地域の関係機関・団体や当事者とともに啓発活動、教育活動の他、地域での福祉的課題について積極的に取り組みを行った。

主な対象者: 刑余者（刑務所などを出所した者）、DV被害者、ホームレス、単身高齢者、就労困難者など

区 分	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
対象者延べ数	1,710名	1,712名	1,571名

### (8) 健康管理センター事業

地域住民及び福祉施設入所者、一般事業所従業者の疾病予防、健康の保持増進に応えるため、人間ドック・各種健康診断を積極的に実施した。

区 分	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
人間ドック	2,400名	2,112名	2,054名
生活習慣病予防健診等	16,500名	14,860名	14,621名

### (9) 地域開放事業

将来の生き方や職業の選択について考えている中学生、高校生を対象として医療、保健、福祉への理解を深めるため職場体験、ナーススクールなどを実施した。病院広報については、済生会フェア、市民公開講座を実施した。

区 分	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
市民公開講座	4回	4回	4回
中学生職場体験	40名	41名	39名
高校生ナーススクール	80名	44名	72名

## 4 静岡済生会療育センター令和

### 基本理念

私たちはノーマライゼーション実現のため、あたたかな心をもって皆さんを応援いたします。

### 令和7年度目標及び結果

#### 目標1 経営の安定化

- ・関係機関と連携し、入院児者の確保に努める。
- ・医師、直接処遇職員の確保に努める。

**結果**・一日平均入院（入所）児（者）数 38.1 名 昨年度より 7.7 名増。目標の 45 名には届かなかったが昨年度より大きく上回る結果となった。

- ・職員の確保については非常勤小児科医師 1 名採用、看護師 1 名採用・1 名退職、支援員 2 名採用・1 名転入・3 名転出と厳しい状況にある。

#### 目標2 適切な支援の提供

- ・年齢および特性等に応じた支援を計画する。
- ・利用者が施設内で楽しく生活の質が向上する日中活動を実施する。
- ・高等部生徒の中央特別支援学校への送迎を継続するため福祉有償運送事業を開始し、必要な教育を受ける支援を提供する。

**結果**・児童、成人それぞれの日中活動（施設内での活動）を計画的に行った。

- ・夢を叶えるプロジェクトによる外出の実施。
- ・季節に応じた行事の実施、ボランティアによる音楽などの訪問の受け入れ
- ・EXPO2025 大阪関西万博パビリオンオンライン遠足に参加し万博の雰囲気を楽しんだ。
- ・フェイシャルマッサージとハンドマッサージをビューティータッチセラピストが 1 月より毎月実施し、心地よいひと時を提供している。
- ・高等部生徒の中央特別支援学校への送迎は昨年度まで施設が無償で行っていたが、福祉有償運送事業を開始したことにより中央特別支援学校より通学費の支給を受けることができ教育を受ける支援を継続することができた。

#### 目標3 職員の質および意識の向上

- ・継続的に院内感染対策、医療安全対策に取り組む。
- ・人権と倫理、権利擁護、虐待防止の意識向上を図るため、職員の意識調査の内容の見直しを行い、研修は外部講師を招いて対面で実施する。
- ・重症心身障害児者の支援者としての資質向上を図る研修を実施する。
- ・SWAP プログラム職員交流制度を支部内他施設との間で実施しお互いの施設を経験し支援の質の向上につなげる。

**結果**・虐待防止・身体拘束の研修実施、定期的に委員会を開催した。

- ・県主催の虐待防止・権利擁護研修に各課・科から 3 名の職員が受講した。
- ・積極的に外部研修（国立心身障害児総合医療療育センターが実施する重心児者の療育に携わる職員に対する研修など）に参加し意識の向上と技術の向上に努めた。
- ・SWAP 研修を伊豆医療福祉センターと実施した。看護師 1 名、支援員 1 名の受け入れと派遣を行った。

#### 目標4 利用者・家族・施設との交流

- ・ご家族と職員の意見交換の場（懇談会）を年2回実施する。
- ・毎月の個人別のお便り、Instagramで施設の様子を発信する
- ・家族が参加できる行事を企画し実施する。また家族同士が交流できる場を設ける。

- 結果**
- ・懇談会を年2回実施した。うち1回は外部講師を招いた勉強会を開催した。
  - ・療育センター祭りを静岡南部特別支援学校と共催「なんぶっこハレ☆ばれカーニバル」として開催した。家族や地域の方々との交流を図った。
  - ・音楽等のボランティア訪問がある際は、ご家族の参加を募り、利用者のご家族と一緒に楽しんでいただいた。
  - ・個人別お便り毎月発行、広報誌年3回発行、Instagramによる施設の情報発信、メール配信システムによる家族への連絡を発信した。

#### 目標5 地域の障害児者支援の充実

- ・相談支援事業所の静岡済生会療育センター令和やさしい街にと支援センター城東を統合し葵区・駿河区の相談支援を一体的に運営する。複数の相談員が情報を共有し連携を取りより良い支援を提供する。
- ・リハビリスタッフの専門性を活かし保育所等訪問、訪問リハを実施し地域の障害児者が地域で生活できるように支援する。

- 結果**
- ・相談支援事業所を統合し、相談員数が増えたことにより経験や専門性の違う相談員が情報を共有しより良い支援ができる体制となった。経験豊富な相談員が新人相談員の育成を行う体制ができた。
  - ・令和7年6月より保育所等訪問支援を開始した。リハスタッフ・心理師が小学校、こども園を訪問し地域の障害児を支援した。

#### (1) 医療型障害児入所施設事業（一種事業）（定員 51 名）

##### 障害福祉サービス事業（療養介護）（二種事業）（定員 51 名）

令和6年度から実施してきた入所者増の取り組みとして長期入所へつなげる短期入所の受け入れ、人工呼吸器装着者の受け入れを引き続き実施したことにより7年度は新入院（入所）12名（児入所2名、療養10名）、退院（退所）3名（児入所3名）。年度当初の33名から年度末は42名と入所者が9名増となった。

今後の施設の在り方については、当センターを含めた静岡医療福祉センターの今後を考える会で引き続き検討している。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均入院(入所)児(者)数	45名	38.1名	30.4名
一日平均外来患者数	120名	105.1名	115.2名

#### 疾病別人員

令和7年4月1日～令和8年3月31日

疾病別	年間実人員	構成比
脳性麻痺	24名	53.4%
進行性筋・神経疾患	6名	13.3%
二分脊椎	2名	4.4%
その他	13名	28.9%
計	45名	100.0%

## 月別入所者数

年月	初日在籍者数	延べ人数
7年 4月	33名	981名
5月	35名	1,077名
6月	35名	1,043名
7月	37名	1,104名
8月	37名	1,137名
9月	38名	1,134名
10月	39名	1,173名
11月	40名	1,219名
12月	42名	1,294名
8年 1月	42名	1,282名
2月	42名	1,175名
3月	42名	1,291名
合計	462名	13,910名
月平均	38.5名	1,159.2名
一日平均		38.1名

### (2) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）

在宅の障害児（者）及びその家族の福祉の向上、支援を目的としている。施設内で感染症が発生したため利用受け入れを停止した期間もあった。短期入所は空床利用であるため長期入所の増加により受け入れできる人数が昨年度より減少したため1名減となった。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間利用延べ人数	1,000名	290名	663名
一日平均利用人数	2.7名	0.8名	1.8名

### (3) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業（二種事業）・・・委

#### 基幹相談支援センター事業・・・委

令和7年4月1日より「支援センター城東」と「静岡済生会療育センター令和やさしい街に」を統合し葵区・駿河区の相談支援を一体的に運営している。

静岡市から委託を受け在宅の障害児者・保護者等からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言、ピアカウンセリング（城東のみ）などの総合的な相談援助、サービスの調整を実施するとともに障害者虐待防止センター事業を行った。令和7年度より基幹相談支援センター事業の委託を受け地域の相談支援事業者の後方支援に関する業務等を実施した。

#### ア 特定相談支援事業・障害児相談支援事業（葵区・駿河区）

利用者の相談支援及びサービス利用計画書の作成等

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
月平均サービス利用計画書及びモニタリング作成件数	90件	67.9件	56件

イ 障害者等相談支援事業（葵区・身体障害者対象）

- (ア) 相談支援事業・基幹相談支援センター事業・ピアカウンセリング  
 ・障害者虐待防止センター事業  
 相談支援事業として総合的な在宅サービスの調整、援助等

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
地域生活の支援・助言	3,500件	2,958件	3,524件
支援者が困難を感じている ケース等に関するスーパー バイズ	200回	101回	
事業所訪問や業務への同行 等による専門的な助言	70回	34回	

(イ) 身体障害者生活支援事業

- A 社会資源を活用するための支援  
 ・施設見学同行支援・移動支援等

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
実施回数	40回	59回	52回

- B 社会生活力を高めるための支援  
 ・集団パソコン教室・受診同行支援等

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
実施回数	25回	43回	46回

ウ 障害者等相談支援業務（駿河区・知的障害者対象）

- (ア) 相談支援事業・基幹相談支援センター事業・障害者虐待防止センター事業  
 相談支援事業として総合的な在宅サービスの調整、援助等

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
地域生活の支援・助言	2,800件	1,940件	2,606件
支援者が困難を感じている ケース等に関するスーパー バイズ	30回	406回	
事業所訪問や業務への同行 等による専門的な助言	24回	63回	

(イ) 障害児等療育支援事業

- A 在宅支援訪問療育等指導事業  
 ・派遣職員：医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理判定員  
 ・活動先：保育園、在宅訪問等

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
相談等延件数	24名	43名	37名

- B 在宅支援外来療育等指導事業  
 ・個別相談、発達評価、ペアレントトレーニング等

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
相談指導	54名	27名	0名

C 施設支援一般指導事業

・療育研修会、障害児保育研修、発達フォローアップ教室、自主研修会等

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
実施回数	12件	0件	0件

(4) 障害児通所支援事業(二種事業)

保育所等訪問支援

令和7年6月より開始。保育所等を利用中の障害児が保育所等における集団生活に適応するため当センターのリハビリスタッフ・心理師が専門性を活かし支援を実施した。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
保育所等訪問支援	17名	22名	

(5) 日中一時支援事業(公益事業) ㊦

医療施設機能を提供しながら在宅の障害児(者)の相談支援や施設短期入所の受け入れなど、地域に住む家族の生活への具体的な支援を目的としている。

短期入所の空席利用となっている。7年度は利用希望者が無かった。

(6) 福祉有償運送事業(公益事業)

令和7年度より開始。障害児者を対象にドア・ツー・ドアの輸送サービスを実施した。中央特別支援学校高等部への送迎を主たる事業としているが、こども病院他への受診、外出時など入所児者で利用を希望する方の送迎も18回実施した。

高等部3年生が年度の途中で退所したことにより10月に2台から1台体制となったため目標を下回った。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間運行回数	820回	564回	

(7) 発達が気になる子どもの受診待機解消業務・・・㊦

令和7年度より開始。相談機関や医療機関等からの依頼を受けて、発達が気になる子どものアセスメントを専門的に行う心理師2名を配置することにより、専門医の受診待機期間を短縮できるよう、保護者の希望するタイミングでの受診や子どもの特性を踏まえた早期支援を行った。

来所の方以外にも毎週月曜日清水病院、火曜日静岡病院に心理師1名が出向きアセスメント等を実施した。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
アセスメント人数	450人(900件)	421人(992件)	

(8) その他の事業(研修室・会議室等運営事業)

医療・社会福祉事業に携わる者の研修等の便宜に供するため、会議室等の管理運営事業を実施。

ア 会議室、ミーティング室利用状況

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
会議等利用人数	600名	670名	633名

## イ 宿泊施設利用状況

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
宿泊施設利用人数	0名	19名	12名

### (9) その他の事業（なでしこプラン）

事業名 障害児療育講座（健康医療相談）

主に施設利用者・家族を対象に無料の相談会を療育講座開催に合わせて行った。5月から1月の間に6回実施した。館内ポスター掲示、SNSでの広報に加え外部施設へのポスター掲示の依頼、QRコードでの参加受付を行い、参加者希望者を広く募った。参加申し込みは74名あったが実際の参加者は55名であった。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
受講者数	70名	55名	50名

**基本理念**

・安心して健康で心豊かな生活ができるよう支援します。

**令和7年度目標及び結果****目標1 良質かつ安心・安全なサービスの提供に努める**

利用者の意向、障害の特性その他の事情を踏まえた個別支援計画に基づき、常に利用者の立場に立って適切かつ効果的なサービスを提供する。

**結果** 入所者の高齢化・重度化に伴う勤務体制の見直しを行い、朝の食事介助のため、令和4年度から早番制度を導入したほか、支援区分に対応した職員配置が行えるよう職員定数を一部改正した。また、令和5年度からは、土・日・祝日における看護体制の整備、令和8年度からは専任の理学療法士を置くなど、利用者に対する支援の充実に努めた。

**目標2 地域との交流を深める**

施設外の催し・大会等に積極的に参加し、利用者の視野を広げると共に、地域に施設を理解してもらう活動を行う。そして地域防災に参加協力し、地域との協力体制構築を目指す。

**結果** 令和7年10月に地域連携推進会議施設見学会、11月に同推進会議を開催し、外部の方の意見も取り入れ、今後の地域連携のあり方を検討した。  
また、わかふじスポーツ大会の参加や西豊田学区における地域防災訓練に参加したほか、静岡県済生会地域包括ケア委員会が行う「なんでも相談会」、「子ども食堂」に参加するなど、地域との交流を深めた。

**目標3 安定した経営を目指す**

相談支援事業所等と連携し、利用者の開拓に努め、入所者を確保する。

(目標) 年間 延べ17,880名

**結果** 令和5年度から営業活動に力を入れ、病院・相談支援事業所・地域包括支援センター等を訪問し入所者の確保に努めている。しかし入所者の高齢化・重度化により、病気等での入院増加と退院後継続して在籍することができなくなる方が増えており、年間延べ利用者数、一日平均在所者数は昨年に比べ減少した。

**(1) 障害者支援施設(一種事業)「施設入所支援50名、生活介護50名」**

障害者総合支援法による障害者支援施設として、日中は「生活介護」、夜間は「施設入所支援」の2事業を行った。

**・施設入所支援**

・定員	50名 (50名)
・年間入所者数	3名 (4名)
・年間退所者数	6名 (4名)
・年間延利用者数	15,950名 (16,208名)
・一日平均在所者数	(目標49名) 43.7名 (44.4名)

疾病別人員

令和7年4月1日～令和8年3月31日

病名	年間実人員(名)	構成比(%)
脳卒中	21	45.7
その他の脳原性疾患	10	21.7
脳外傷	4	8.7
その他	11	23.9
計	46	100.0

月別生活介護・入所者数

月	月初入所人数	生活介護						施設入所	
		入所		通所		合計		利用人数	延べ利用数
		利用人数	延べ利用数	利用人数	延べ利用数	利用人数	延べ利用数		
4	45	46	996	5	23	51	1,019	46	1,358
5	46	46	1,012	5	24	51	1,036	46	1,426
6	46	46	931	4	18	50	949	46	1,331
7	46	46	1,018	4	14	50	1,032	46	1,369
8	45	45	923	5	17	50	940	45	1,363
9	45	45	979	5	20	50	999	45	1,334
10	45	46	1,020	4	22	50	1,042	46	1,376
11	46	46	890	4	15	50	905	46	1,337
12	45	45	996	4	13	49	1,009	45	1,344
1	44	44	922	4	10	48	932	44	1,298
2	44	44	830	4	9	48	839	44	1,162
3	42	42	887	4	11	46	898	42	1,252
計			11,404		196		11,600		15,950

・生活介護

- ・定員生活介護 50名(50名)
- ・開所日数 261日(261日)
- ・年間延利用者数 11,600名(12,055名)
- ・一日平均利用者数 44.44名(46.19名)

(2) 福祉サービス事業(短期入所)(二種事業)(空床)

指定障害福祉サービス事業所として短期入所事業を空きベッドの利用により実施した。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間利用延べ人数	210名	345名	280名
一日平均利用人数	0.6名	0.9名	0.8名

(3) その他の事業(なでしこプラン)無料健康相談

令和7年10月22日、あおば祭りにおいて、済生会総合病院協力のもと、地域住民・施設利用者・家族を対象に無料の健康相談会を行った。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
対象者数	6名	4名	2名

#### (4) 第三者評価の受審

前回受診した令和2年度から5年が経過したことから、令和7年10月に第三者評価を受審した。外部有識者の指導、指摘等により、更なる障害福祉サービスの質の向上と利用者の満足度の向上を図るヒントを得ることができた。

## 6 静岡医療福祉センターライトホーム

### 基本理念

三療免許者に対し、必要な技術及び生活指導を行い、利用者の自立更生をはかる。

### 令和年7度目標及び結果

#### 目標1 経営の安定化

- ・利用者（施術者）の確保 目標 2名/日
- ・利用客の確保 目標 500人（利用者施術分）

#### 結果

- ・利用者（施術者）は年度当初は4名在籍  
入所4名 退所5名。前年度は1.08名/日、今年度は2.28名/日と目標を上回った。
- ・利用客は785人と目標を上回った。

#### 目標2 施設の広報活動

- ・済生会フェアへの参加
- ・地域の催し物への参加
- ・視覚特別支援学校からの見学受け入れ

#### 結果

- ・済生会フェアマッサージ体験ブース  
令和7年6月7日（土）来場者105名
- ・地域の催し物への参加  
「2025 ビジョンサポート機器展 IN 沼津」マッサージ体験ブース  
令和7年11月30日（日）プラザヴェルデ 来場者58名  
「こころのバリアフリーイベント」マッサージ体験ブース  
令和8年3月14日（土）青葉シンボルロード 来場者93名
- ・視覚特別支援学校へ講師派遣  
令和7年7月25日（金）  
目的：施設の概要や仕事を知るとともに進路選択の参考にする  
内容：施設の見学、研修メニューの紹介  
対象者：静岡視覚特別支援学校 生徒 教員  
配布資料：ライトホーム研修メニュー一覧、パンフレット

### (1) 利用者指導事業（定員20名）

利用者の技術（鍼・灸・マッサージ）及び生活訓練動作の指導を行い、自立生活ができるよう養成に努めた結果、開業1名、就職4名の5名が退所し自立した生活を送るための支援ができた。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均通所者数	2名	2.28名	1.08名

### 疾病別人員（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

疾病分類	通所実人員	構成比
先天性視覚障害者	0名	0%
中途視覚障害者	8名	100%
計	8名	100%

月別在籍者数

年月	通所者延べ人数
7年 4月	28名
5月	60名
6月	63名
7月	59名
8月	48名
9月	53名
10月	58名
11月	39名
12月	33名
8年 1月	36名
2月	28名
3月	36名
合計	541名
月平均	45.1名
一日平均	2.28名

(年間通所日数 237日)

## 7 静岡市発達障害者支援センター

### 基本理念

直接支援である相談、発達、就労支援及び情報提供や啓発研修のより一層の充実を図り、医療、保健、福祉、教育、雇用、親の会など関係機関や団体との連携により専門性を持った支援職員人材育成、ペアレントメンター、地域サポーター養成研修等の支援を行っていく。

### 令和7年度目標及び結果

**目標1 静岡市発達障害者支援センター運営事業について、相談支援、発達支援、就労支援を継続し適切な助言や支援の提案を行う。**

**結果** 発達障害者支援法に基づく発達障害者に対する相談支援、発達支援、就労支援、関係機関に対する普及啓発及び研修等を行い、また、静岡市在住の自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害がある本人、家族、関係者及び関係機関からの相談支援を行った。

相談支援においては、相談者や関係機関と支援や情報を共有するために、電話相談のやり取りを丁寧に行うことを意識した。発達支援については、おもに支援体制サポート強化事業や※1コンサルテーション事業において、特に園・小・中学校及び高等学校に訪問をした際に、複数の児童・生徒の様子と助言を求められることがあった。就労支援においては相談時間が当センターで基本の1時間を大幅に越えて2時間にわたるケース、発達障害の特性に加えて精神障害や人格障害が疑われるケースなど、相談内容についてはより困難化をしていたり、相談受付の見極めに慎重を要する相談者も増えてきており、今後も重点的な支援の課題として取り組みたい。

※1 年4回の支援体制サポート事業を超えてさらにバックアップが必要となる場合、訪問して支援する事業

**目標2 発達障害者家族支援・支援体制サポート強化事業 支援体制サポート強化事業において、巡回相談を実施する**

※2ペアレントメンター・※3地域サポーター養成講座を実施し、あわせてペアレントメンターの活用を行う。

※2 自らも発達障害のある子どもの子育てを経験し、かつ相談支援に関する一定のトレーニングを受けた親

※3 養成講座を受けた専門機関等の職員

**結果** ペアレントメンター・地域サポーター養成研修では、例年の養成講座6回に加え、(養成講座を修了したペアレントメンターが実際に活動を継続している地域はまれであり、)活動が継続できる体制づくりを実施した。3回のフォローアップ研修も実施した。

支援体制サポート強化事業については、園・小・中学校、高等学校及び就労移行支援事業所への訪問を実施した。さらに市内の私立学校へも募集をおこなった。その結果、中高一貫校を含む私学への訪問を実施した。今後も乳幼児期から成人期まで途切れのない支援がつながるよう事業を継続していくことを課題とする。

**目標3 発達障害について、主催研修会、専門研修会、講師派遣を実施し、普及と啓発活動を行う**

**結果** 一般研修、専門研修、かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会を対面形式やZoomによるオンライン開催により実施した。また視聴期間を決めてWebで視聴で

きる形式（期間限定の Web 配信、常設の Web 研修、ライブ配信した研修の期間限定見逃し配信）で実施した。そのため Web による視聴回数も参加延べ人数としているため、目標を上回った。ペアレントメンター・地域サポーター養成研修など一部の研修会については、対面形式とオンライン形式を組み合わせたハイブリット型で実施した。今後も研修会の質と参加者の利便性双方に考慮した開催を継続することとする。

(1) 発達障害者支援センター事業<sup>委</sup>

ア 発達障害児者及び家族に対する相談支援

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間延べ相談件数	600件	709件	592件

イ 発達障害児者及び家族に対する発達支援

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間延べ相談件数	1,000件	1,043件	1,126件

ウ 発達障害児者に対する就労支援

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間延べ相談件数	100件	166件	135件

エ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修（集合形式と Web 形式による開催）

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間開催回数 (参加延べ人数)	80回 (5,000名)	154回 (6,342名)	150回 (4,944名)

(2) 家族支援・支援体制サポート強化事業<sup>委</sup>

ア 支援体制サポート強化事業による巡回

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間延べケース数	350件	895件	998件
年間延べ訪問数	111回	110回	112回

イ ペアレントメンター・地域サポーターの養成

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間開催回数 (参加延べ人数)	6回 (300名)	9回 (380名)	7回 (474名)

ウ ペアレントメンターの活用

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間実施回数 (ペアレントメンター延べ人数)	40回 (120名)	63回 (113名)	62回 (129名)

**基本理念**

私たちは、障がいを持つ方々の生活の充実・納得を目指して、チームを組んで医療と療育の総合的支援に取り組みます。

**令和7年度目標及び結果****目標1 地域ニーズの的確な把握と、適切な病床利用**

入所者数 37名

**結果** 令和7年度の入所者数については、年度末において児童が13名、成人が23名の計36名であった。

**目標2 入所利用者の満足度の向上**

病棟での様々な行事の充実

**結果** 病棟での行事については、感染予防に配慮しながら、各季節に応じた行事を実施し可能な限り家族に行事参加や面会をしていただいた。また障害福祉サービス第三者評価を受審し、指摘されたマニュアルの整備や見直しと改善経過の記録文書化について検討し改善に取り組んでいる。

**目標3 在宅重症心身障害児者の福祉向上**

利用者数 生活介護6名/日 児童発達支援4名/日 短期入所等4名/日

**結果** 在宅支援福祉関連サービスの児童発達支援については、対象となる重症心身障害児の減少に伴い利用者数も減少している。対応策を検討し、令和8年度については放課後等デイサービスを新規事業で実施することで利用者数の回復を目指す。

**目標4 発達障害の患者への対応**

初診患者の待機期間の短縮、陪席研修の拡充

**結果** 外来診療でのオンライン診療と対面診療の併用に加え、定期処方・リハ処方のみ患者へ、主治医以外の複数医師による※エクスプレスレーン（通常より早く・簡略に会計まで進められる専用ルート〈窓口・時間帯・仕組み〉）の提供を始め、診療体制向上に努めたが待機期間の短縮には至らなかった。また発達障害診断医師養成研修（陪席研修）を静岡県から受託し、前年度よりも多くの開業医を含めた医師を受け入れ、発達障害に関する地域診療体制の構築に参画した。

**目標5 運営システムの見直しによる施設機能の充実**

オンライン診療と対面診療の併用、地域連携機能の強化

**結果** オンライン診療と対面診療の併用を行った。また、厚生労働省の補助を受け、静岡県東部地域における障害者歯科診療体制の実態調査・歯科ユニットの増設・当施設を含めた障害者歯科診療体制構築を目的とした、行政と地域歯科医師会に所属する開業歯科医師との協議会を開催し、今後の課題を共有し連携を強化した。

当センターは、社会福祉施設であるとともに、医療法に基づく病院であるので、医療の提供も併せて行っている。

医療の提供については、重症心身障害児（者）への入院診療とともに、外来診療として、小児科（小児神経科、児童精神科、発達行動小児科）、整形外科、リハビリテーション科、障害児（者）歯科の専門診療を実施している。

地域への支援の必要性が高まる中、入所・通所事業、相談支援事業、医療の提供を通じて、静岡県東部の障害児(者)の総合的な療育支援の機能を担っている。

(1) 医療型障害児入所施設(一種事業)・障害福祉サービス事業(療養介護)(二種事業)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均在所児(者)数	37名	35.4名	35.3名
一日平均外来患者数	117名	99.4名	100.3名
(入所)		(外来)	

- ・定員 43名(43名)
- ・年間延べ患者数 (23,565名) (23,882名)
- ・在所児(者)数 36名(35名)
- ・年間診療日数 (237日) (238日)
- ・年間延べ在所児童(者)数 12,921名(12,881名)
- ・一日平均患者数 (99.4名) (100.3名)
- ・一日平均在所児童(者)数 35.4名(35.3名)

(2) 障害福祉サービス事業(生活介護)(二種事業)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用者数	6名	5.7名	5.6名
・定員	(6名)	(6名)	
・登録者数	(19名)	(19名)	
・年間延通所者数	(1,348名)	(1,318名)	
・一日平均通所者数	(5.7名)	(5.6名)	
・年間通所日数	(236日)	(235日)	

(3) 障害児通所支援事業(児童発達支援)(二種事業)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用者数	4名	2.6名	3.4名
・定員	(5名)	(5名)	
・登録児童数	(8名)	(9名)	
・年間延通所児数	(616名)	(807名)	
・一日平均通所児数	(2.6名)	(3.4名)	
・年間通園日数	(236日)	(237日)	

(4) 障害福祉サービス事業(短期入所)(二種事業)

(5) 日中一時支援事業(地域生活支援)(公益事業) 委

(4)障害福祉サービス事業 短期入所及び(5)日中一時支援事業(地域生活支援)	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用児(者)数	4名	3.6名	4.2名
・年間延べ利用者数	(1,325名)	(1,515名)	
・一日平均利用児(者)数	(3.6名)	(4.2名)	
・年間実施日数	(365日)	(365日)	

(6) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業(二種事業)

障害児支援利用計画及びサービス等利用計画策定に伴う相談の取り扱い件数が増加

した。

ア 障害児相談支援事業 ……障害児支援利用計画の作成

イ 特定相談支援事業 …… サービス等利用計画の作成

ウ 静岡県在宅重症心身障害児（者）療育支援事業・・・㊦

医師・看護師・リハビリ・保育士等の専門職による外来相談を中心に、重症心身障害児（者）を対象として、地域での療育や生活に関する相談・支援を実施した。

エ 静岡県発達障害者支援センター機能強化事業…㊦

発達障害児（者）のライフステージに応じた支援を提供するため、多職種の連携による相談援助を実施した。

オ 地域連携支援事業

ウの対象外の障がいを持つ方に対し、当施設の独自事業として、施設・保育所・

事業	支援内容	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
ア、イ	計画相談等（モニタリング含む）	400回	301回	316回
ウ	施設支援一般指導等	90回	114回	97回
エ	一般相談（地域生活支援事業含む）	800回	961回	936回
オ	施設支援一般指導等	50回	38回	37回

特別支援学校等へリハビリ等の専門職を派遣し専門的な技術指導や助言等を行った。

#### （7）その他の事業（なでしこプラン）無料健康相談

「伊豆医療福祉センターまつり」に合わせて、無料健康相談を実施した。また、幅広い相談に対応できるよう、他施設や外部団体との連携を強化した。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間利用者数	15名	14名	29名

#### （8）生活に根差したリハビリテーションの提供

重症心身障害児（者）だけでなく、発達障害等の患者が安心して地域で生活できることを目指しリハビリテーションを提供するとともに、個人の機能・能力の適正評価、多職種の連携、生活を支える人と情報の共有化を図った。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均外来リハ件数	80名	62.7名	66.8名

#### （9）薬剤管理指導業務

入所者が服薬している薬剤について、薬剤師が薬学的管理業務を実施して記録を作成し入所者の御家族等へ送付・連絡した。

なお、定期的に薬剤が処方されていない者等は、対象外としている。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
毎週平均実施患者数	32名	32名	31名

#### （10）栄養サポートチーム加算の算定


栄養管理を要するに入所者に対して、生活の質の向上、原疾患の治癒促進、感染症等の合併予防を目的として、医師、看護師、管理栄養士等が共同して診療したが、施設基準の要件を満たすことができなかったため、当該算定はできなかった。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
毎月平均実施患者数	32名	0名	0名

(11) 発達障害の患者の初診までの待機期間の短縮

発達障害に関する関心が高まり初診希望者が増加している。診療体制の向上を目指す取り組みをしたが、それにも増して受診希望者が増加したため待機期間の短縮は出来ていない。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
平均待機期間	6カ月	8カ月	8カ月

(12) 発達障害診療医師養成研修（陪席研修）…

地域において、発達障害の早期発見、早期治療ができる医療体制の構築を目指して、発達障害の診察等に携わる医師の専門性の向上を目的とする臨床実習を実施した。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
当年度参加医師数	8名	9名	5名
累積参加医師数	23名	28名	19名
当年度参加医療機関数	4	8	5
累積参加医療機関数	8	15	11

(13) オンライン診療と対面診療の併用

外来患者や職員の感染防止のみならず、静岡県東部という距離的にも時間的にも遠い分散された地域の特性の中、通院の負担、特に増加する共働き世帯の制約を軽減するために、オンライン診療と対面診療の併用を行った。

(14) 地域連携機能の強化

相談支援課に地域連携の機能を担わせ、いままで分散していた、関係機関との連絡調整窓口や利用者の相談窓口を一元化等業務の効率化により利用者へのサービスの向上に繋がった。

(15) 第三者評価の受審

障害福祉サービスの質の向上と利用者の満足度の向上等を図るため、公平・中立な第三者機関から専門的かつ客観的な評価を受審した。

(16) 開設 60 周年記念行事の実施

当施設が開設 60 年を迎えるに当たり、記念式典を開催し 60 周年記念誌を発行した。

## 9 川奈臨海学園

### 基本理念

子どもの最善の利益のため、子どもたち一人ひとりが尊重され、心身とも健やかに育成され将来健全な社会の一員として自立できるように支援を行う。

### 令和7年度目標及び結果

#### <児童養護施設>

#### 目標1 県の社会的養育推進計画に合わせた取り組み

- (1) 県の「社会的養育推進計画」に基づき措置児童等への質の高い養育や支援（多機能化）が提供できるよう研修等により職員の資質向上を図る。
- (2) 1ユニット定員6名の家庭的な環境の保持とともに多機能化に向けた調査を進める。

**結果** より家庭的な生活環境を提供するため定員6名のユニット形態での養育に移行して5年目を迎え、細々した課題を解決しながらその環境に対応する中で、養育の質も高まってきた。

また、伊東市鎌田地区・八幡野地区で実施している地域小規模児童養護施設においても、設置目的である地域に根付いた養育を実施することができた。

#### 目標2 基本理念に基づき、児童の生活支援及び自立へ向けての取り組み

- (1) 本体施設 36名、地域小規模施設 2施設 計 12名  
自立支援計画票に基づき児童一人ひとりに合った生活支援を行う。
- (2) 高校卒業後を見据え、自立に向けて支援する。  
目標：該当児童5名
- (3) 家庭復帰へ向けて家族との連携及び協働について家族再統合のできる家庭の調整を行う。

目標：5家庭

**結果** 関係機関と協議し入所児童ごとに自立支援計画を立てた上で支援を行った。

令和7年度措置対象入所児童は 42名

(入所理由別内訳)

・虐待による入所	30名	71.4%
・養護による入所	10名	23.8%
・不登校による入所	1名	2.4%
・その他による入所	1名	2.4%

新規入所者は7名、退所者9名、

(内訳：家庭復帰2名、他施設に移動2名、就職5名)

#### 目標3 里親支援への取り組み

- (1) 里親制度の啓発とともに、里親への研修・実習を積極的に受け入れる。
- (2) 里親の開拓や資質向上のサポートを行う。

**結果** (1) 静岡県から養育里親認定研修事業の委託を受け里親施設研修を実施した。

- (2) 施設と同じく社会的養護を担う里親家庭との連携を強化するため、東部・賀茂地区の里親会に参加した。また里親家庭の子育て相談や一時的休息を図ることを目的に川奈サロンの開催や地域別サロンに参加した。

- (3) 里親相談会を、誰でも気軽に立ち寄ってもらいたいという目的から、伊東市内のショッピングセンターにて年4回開催し、里親制度を分かりやすく説明する展示や個別相談などを行った。10月の里親月間では同ショッピングセンターにて160部の里親啓発のチラシを配布した。

	実績	
(1) 養育里親認定研修	11組	21名
(2) 里親の開拓や資質向上のサポート	東部・賀茂里親会 サロンの開催・参加	8回 31回
(3) 里親相談会	来場者 相談件数	11名 8件

#### 目標4 感染症や災害対策方針

- (1) 業務継続計画（BCP）について定期的な見直しとともに職員研修会を実施する。  
 (2) 入所児童に対する安全計画を策定し、職員間での共有を図るとともに定期的に研修や訓練を実施する。

- 結果** (1) 計画の見直しの実施とともに職員会議にて周知徹底した。  
 (2) 定期的に防災委員会及び感染症対策委員会を開催、そこでの情報を共有し、災害時対応の確認及び意識向上に向け、避難訓練及び防犯訓練を実施した。

#### 目標5 自動車運転についての安全配慮

車両への乗降時の児童等への点呼等によるその所在の安全確認及び記録等による運行管理の徹底などこれまで実施してきた安全への配慮を引き続き実施していく。

- 結果** 児童の乗降車時に関するマニュアルの見直し、周知・徹底する中で安全管理に取り組んだ。

### <病児保育>

#### 目標6 病児保育事業の充実を図る

- (1) 伊東市からの受託により、病児に対する疾病からの回復を支援する。  
 (2) 関係機関と連携し、より多くの市民へ事業の周知を図るとともに、手続きの簡素化等利用しやすい方法を検討する中で子育て世代の支援を図る。

- 結果** (1) 利用者の利便性向上に向け、指定医療機関をこれまでの4医院から5医院に増やし、伊東市域を幅広く網羅する環境を整えた。  
 (2) 利用者への情報提供や予約連絡等に SNS を活用し連絡方法の幅を広げるとともに、保護者が安心して預けられるよう児童の日中の様子の定時配信を行った。利用者は年間目標数の延べ480人を超える515人となった。

#### 目標7 子育て短期支援事業の推進

一時的に児童を養育することが困難となった家庭に対し、児童への短期間の養育・保護を提供することにより地域の子育て環境の向上を図る。また、他市町との事業受託により広域圏の福祉環境の向上にも寄与する。

- 結果** 令和7年度は受託を必要とするケースは1件であった。  
 令和6年からの伊豆市に続き、令和7年度には伊豆の国市及び函南町と子育て短期支援事業の契約を交わし目標である広域圏での福祉環境向上に寄与した。また、熱海市との委託については引き続き協議していく。

**目標 8 川奈臨海学園、開園 70 周年記念式典・祝賀会の開催**

当施設が開園から 70 年目の節目を迎えるにあたり、施設運営に携わる方々を招き記念式典及び祝賀会を開催する。開園 70 周年記念事業の実施

**結果** 毎年ボランティア活動を実施していただいている地域内のホテルにて、伊東市の管理職、地区長及び運営に携わっていただいている方々等を来賓に招き、入所児童らとともに会食形式での式典を開催した。あわせて、本園の運営に献身的に携わっていただいている方々に感謝の意を表し感謝状及び記念品を贈呈した。

**(1) 児童養護施設運営事業（一種事業）**

月別在所児童数（本体と地域小規模施設合算）

（名）

年 月	初日在籍者数	延べ人数	年 月	初日在籍者数	延べ人数
令和 7 年 4 月	37	1,110	10 月	40	1,240
5 月	38	1,178	11 月	40	1,200
6 月	38	1,148	12 月	40	1,246
7 月	39	1,209	令和 8 年 1 月	40	1,292
8 月	39	1,238	2 月	42	1,176
9 月	40	1,204	3 月	42	1,252
			計	475	14,493
			( ) は前年度	(475)	(14,357)
			月 平 均	39.6	1,207.8
			一日平均		39.7

	令和 7 年度計画・目標	令和 7 年度実績	令和 6 年度実績
本体	36 名	29.0 名	29.0 名
地域小規模施設わかな	6 名	5.7 名	5.0 名
地域小規模施設あおば	6 名	5.0 名	5.3 名
一日平均在所児童数	48 名	39.7 名	39.3 名

**(2) 病児保育事業（二種事業）** (委)

	令和 7 年度計画・目標	令和 7 年度実績	令和 6 年度実績
年間利用延べ児童数	480 名	515 (511) 名	447 (439) 名
月平均児童数	40 名	42.9 (42.6) 名	37.3 (36.6) 名

\* ( ) 内は委託に係る伊東市在住延べ人数

**(3) 子育て短期支援事業（二種事業）** (委)

	令和 7 年度計画・目標	令和 7 年度実績	令和 6 年度実績
年間延べ利用児数	20 名	3 名	0 名

**(4) その他の事業（なでしこプラン）**

**ア 保護観察対象等が行う社会貢献活動の受け入れ**

保護観察所及び地区保護司会と連携し、保護観察対象者の社会貢献活動の場を当学園が提供し継続的に受け入れと支援を行う計画を立てたが、該当する方はおらず、実

施できなかった。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間受け入れ回数	2回	0回	0回
年間受け入れ延べ人数	16名	0名	0名

#### イ 退所児童の健康診断補助事業

施設の自立支援担当職員が中心となり施設退所者のアフターケアを継続的に行っている。生活困窮のため健康診断等を受けていない医療的ケアが必要な退所者はいなかった。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間受け入れ延べ人数	2名	0名	0名

#### (5) なでしこプラン以外の公益的活動

##### ・地域支援事業の推進

伊東市小室地域において住民が安心して暮らせる地域作りに向け、住民と関係機関が連携し、さまざまな地域課題を共有し助け合う社会を育てていく場の設置検討を目的とした小室地域ふるさと協議会会議に参加。ふるさと協議会の在り方や地域住民への周知方法等についても協議した。

##### ・第三者評価の受審

児童養護施設として、福祉サービスの質及び施設の信頼性の向上を図ることを目的に、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第45条の3に基づく第三者評価を受審し、評価内容を公表した。

**基本理念**

児童福祉法に基づく児童発達支援センターとして、発達の心配な乳幼児の子育て支援・家庭支援の充実を図り、こどもたちの健やかな育ちと安心・安全な生活の実現に努める。

**令和7年度目標及び結果****目標1 通園支援事業の充実**

- ・個々の発達状態を踏まえた個別支援計画に基づき、こども・保護者の気持ちに寄り添いながら、集団生活を通して遊びとコミュニケーションの力を育て、生活習慣の自律と社会適応を支援する。
- ・支援の多様化に伴い、希望者には幼稚園・保育園・事業所等との並行通園を実施し、関係機関と連携を取りながらこどもの成長・発達を促していく。
- ・療育、サービスの質の向上と安定した運営について運営委員会等で検討し全職員で取り組む。令和7年度は指定管理最終年度に当たるため、行政・支部等と現状の課題を共有し、協議しながら円滑に更新手続きを進める。

**結果**

- ・7年度は例年より多い34名の新入園児を迎え。前半は低年齢児の感染症による欠席が目立ったが、後半は体力の向上とともに利用率も安定した。各クラス、親子に寄り添ったきめ細やかな支援を継続している。
- ・保護者ニーズに応え、並行通園（14名）や他事業所併用（11名）の調整を行い利用率の向上を図った。園訪問や電話連絡による密な情報共有を通じ、集団生活と専門的支援の両面からこどもの成長を支えた。
- ・次期5年間の指定管理受託に向け、これまでの運営実績の報告および申請を行い、再指定を受けた。この過程で、今後の児童発達支援センターとしての役割を再確認する重要な機会となった。

**目標2 職員の資質・意識向上**

- ・園内研修（業務マニュアルの理解、障害・発達のとらえ方、家族支援、移行支援、個別サービス評価等）の充実を図る。引き続き、職員全員にいこいの家の運営方針等を周知徹底し、より良い支援につながるよう意識を高めていく。
- ・研修計画に基づき、外部研修への参加、オンライン研修を取り入れ職員全員が参加できる体制を整えることで、専門性の高い研修を積極的に受講し、より多くの知識・技術の習得を図る。

**結果**

- ・静岡市発達障害者支援センター「きらり」の年4回による動画研修や外部研修、専門講師による講義を継続し、職員の専門知識と支援スキルの向上を実現した。また、ヒヤリハットの月例分析と共有を徹底したことで、組織的な再発防止体制が定着し、より安全で質の高い支援体制の構築となった。

**目標3 地域支援事業（親子教室・保育所等訪問支援事業）の充実**

- ・親子教室は、保健センター、あそびのひろば・ぱすてるひろば、静岡済生会療育センター令和、こども病院等からの紹介が多い。1グループを7～8名の小集団とし、今後も関係機関との連携を密にし、随時受け入れを行い切れ目のない支援を行う。
- ・保育所等訪問支援事業は、計画相談支援事業所、児童発達支援事業所、保育園等からの紹介が多いため、今後も連携を深めていく。また、保護者から利用希望が

あれば速やかに支援につなげていく。

- 結果**
- ・親子教室は、2部屋・前後半制（定員7組）により1日4クラス体制を維持した。「希望者は随時受け入れる」方針のもと、延べ参加人数は1,872名と右肩上がりに転じている。受給者証なしで利用できる教室へのニーズの高さが伺える。
  - ・保育所等訪問支援事業は、今年度は13ケースの支援を実施した。相談支援事業所や園からの紹介が大半を占め、これまでの実績が信頼に繋がっている。また、市の子ども部会で事例発表を行い、関係機関との連携・情報共有を深めることができた。

#### 目標4 地域福祉事業の充実

- ・「いこいの家通信」を毎月発行し、事業内容を地域自治体や関係機関に伝えていく。
  - ・地域に開かれた施設として、見学・研修・実習・ボランティア等について、感染防止対策をしたうえで積極的に受け入れていく。
  - ・地域との交流、啓発を図るために、いこいの家まつりを開催する。
- 結果**
- ・「いこいの家通信」のHP掲載への移行（月1回）とインスタグラムの運用開始により、地域の方々へのスムーズな案内とともに、事業内容や子どもたちの様子をより広く発信し、認知度を高めることができた。
  - ・2グループ7名のボランティアによる継続的な支援に加え、多職種（福祉・保育・看護）の実習や行政の専門研修を幅広く受け入れた結果、多角的な視点から支援の質を深めるとともに、地域や専門機関に施設への理解を広める一助となった。
  - ・昨年開催した50周年記念イベント「いこいの家まつり」を毎年秋に開催することとし、地域の方々、地元の飲食店・事業所との連携を強化した結果、大勢の参加と協力を得ることができ、地域共生社会の実現に向けた強固な信頼関係を築くことができた。

### (1) 障害児通所支援事業（二種事業）④

#### ア 児童発達支援通所支援（定員50名）

一日平均在園（通園）児童41.5名を目標に、就学前の心身障害児に対して集団参加を通して、生活と遊びを充実させ、健やかな成長、発達をしていくように支援し、併せて就園・就学に向けての基礎作りをした。令和7年度は14名の並行通園児を受け入れた。

安全管理については送迎車の置き去り防止装置、登園管理システムを利用し安全な登降園管理に努めた。

・入園児数（定員）	58名	(55名)
・年間新入園児童数	34名	(15名)
・年間退園児童数	15名	(32名)
・年間延在園（通園）児童数	9,213名	(9,903名)
・一日平均在園（通園）児童数	38.2名	(40.9名)

疾病別人員 令和7年4月1日～令和8年3月31日

病名	年間取扱実人員(名)	構成比(%)
脳性麻痺	1	1.7
自閉スペクトラム症	25	43.1
精神遅滞(発達遅滞を含む)	6	10.4
染色体異常(ダウン症他)	14	24.1
その他	12	20.7
計	58	100.0

月別在園児童数(年間通所日数241日)

年月	在籍者数	延べ人数
7年 4月	58	711
5月	58	777
6月	58	829
7月	58	865
8月	58	726
9月	58	762
10月	57	875
11月	57	612
12月	57	768
8年 1月	57	720
2月	57	721
3月	57	847
合計	690	9,213
月平均	57.5	767.8
一日平均		38.2

イ 保育所等訪問支援

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
保育所等訪問支援	15件	13件	11件
訪問支援		100件	104件
来所相談		87件	43件
電話相談		412件	310件

(2) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業(二種事業) (指)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
利用計画(モニタリング含む)作成件数	175件	228件	216件
一般相談		261件	171件
面談		286件	270件
電話相談		1,484件	1,802件
訪問支援		170件	153件
その他		485件	505件

(3) その他 地域療育支援事業

ア 親子教室 年間 132回(月平均 11.0回)登録者数 130名(138名)

参加児延べ数 目標 1,700名 実績 1,872名(1,766名)

昨年度より参加人数が増え、特にパステル広場からの紹介参加児が増えている。参加希望者全員待機することなく参加してもらう事ができた。

イ 療育相談の実施(随時) 目標 70名 実績 105名(150名)

一般相談(電話及び来所) 302名(416名)

療育相談は今年度も面談時の発達検査等の結果などを踏まえ、家庭での関わり方や

進路などについてフィードバックを丁寧に行った。親子教室利用児以外の入園前の面談・療育相談は入園受付係の職員が対応した。(30件)

## ウ 地域交流等

夏祭りは通園児・保護者のみ2クラスごとの実施となったが、秋のいこいの家祭りは地域の方にも広く参加していただくことができた。

ボランティアは希望があれば受け入れをし、保育ボランティア、装飾ボランティア、散髪ボランティアに参加していただいた。

近隣の保育園との園庭交流は、保育園の園庭に出向き園児と一緒に遊んだり、いこいの家の園庭に園児が遊びに来たりして交流することができたが回数は少なかった。

実習生は同時期になるべく複数人が重ならないよう調整して受け入れを行った。静岡市公立こども園の特別支援基礎研修の実習受け入れや静岡県の子供虐待防止研修の実習受け入れも行った。

防災関係では、園内の避難訓練では、広域避難場所の小学校敷地内まで避難する経験を今年度も行った。

- ・いこいの家通信発行 12回 (12回) 令和7年度よりホームページ上で公開
- ・夏祭り参加者 通園児と保護者のみ2クラス毎で実施 保護者 65名 (65名)
- ・実習生受入 88名 (87名) 延 228名 (257名)
- ・体験研修受入 35名 (36名) 延 38名 (38名)
- ・ボランティア受入 5名 (6名) 団体 9名 (9名) 延 156名 (188名)

**基本理念**

私たちは、ご利用者一人ひとりの声に耳を傾け、真に、ご利用者の立場に立った支援を実践します。

**令和7年度目標及び結果****目標1 施設や住み慣れた地域で、安心して生活できるように支援する**

- ・在宅介護サービスから、施設入所まで、包括的に事業を推進する。
- ・在宅・施設入所事業の介護ソフトを統一化することにより、情報共有を効率化する。

**結果** 在宅生活が難しくなったものの施設入所できずに困っている方をロングショートステイで受け入れるなど、在宅部門と入所部門で連携が取れた。介護ソフトの統一により必要な情報共有は図られたと考える。ソフトの中で使用しているフォーマットが部署ごとに異なることや個人情報の管理といった面から、情報共有や効率化にはまだまだ課題がある。在宅部門の協働という点では、令和7年度より月1回在宅サービス課会議を開催し、スムーズな連携、課題について関連部署間で話し合う機会を設けた。

**目標2 介護の生産向上に取り組み、より質の高いケアを届ける**

- ・センサー・インカム等の介護機器の導入により、より安全に・より効率的に支援をする。
- ・介護マニュアルの見直しを行い、3M（ムリ・ムダ・ムラ）を減らすことにより、業務の維持・向上を目指す。

**結果** 令和7年度は補助金を活用しながら、見守りカメラを10台導入した。3月の導入だったため、これから効果的な使用方法について検討していく。年間を通じて人員に余裕がなく、マニュアルの見直しに着手できなかった。介護マニュアルの見直しと業務の標準化は、令和8年度も引き続き目標に掲げている。

**目標3 稼働率の向上を図り、安定した運営を目指す**

- ・事業計画の目標に向けて、職員一人ひとりが努力する。
- ・LIFE（科学的介護情報システム）を活用し、科学的介護を推進する。

**結果** 職員一人ひとりの努力により日々の活動が支えられていることは言うまでもないが、年間を通じて人員に余裕がなく、稼働率の向上には至らなかった。LIFE（科学的介護情報システム）は、全体としてはフィードバックされる情報が限定的であることや、個別では利用者のADLに大きな変化がなければフィードバックされる情報にも変化が見られず、科学的介護の推進につなげることは難しかった。

**目標4 施設の魅力を発信し、雇用につなげる**

- ・ホームページに活動を掲載し施設の魅力を伝えていく。
- ・実習を通し、福祉の魅力を伝え雇用につなげる。

**結果** 令和6年度に比べ、インスタグラムで季節の行事や日頃の活動などを掲載できた。引き続き活動を発信しながら、小鹿苑を知っていただける機会を増やしていきたい。



個別機能訓練加算（Ⅰ）、口腔機能向上加算（Ⅰ）は令和6年度より算定を開始し、令和7年度も継続している。傾向としては、リハビリ希望者、介護度1及び2の利用者が増加した。

・年間延べ利用者数	5,612名	(5,653名)
・年間実利用者数	490名	(479名)
・年間実施日数	307日	(308日)
・利用者平均年齢	87.4歳	(87.3歳)
・平均介護度	要介護 1.8	(2.0)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均延べ利用人数	25名	18.3名	18.3名

#### イ 介護予防・日常生活支援総合事業（公益事業）

要支援者・事業対象者で日常生活に支障がある方に対して、日帰りで各種サービスを提供する「通所介護相当サービス」を行った。目標には達しないが、令和6年度に比べ延べ利用者数は約30%増加した。

・年間通所相当延べ利用者数	315名	(232名)
・年間通所相当実利用者数	53名	(31名)
・年間通所相当実施日数	307日	(308日)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
月平均実利用者数	10名	4.4名	2.6名

#### （4）訪問介護部

##### ア 老人居宅介護等事業（訪問介護事業）（二種事業）

要介護認定者で日常生活に支障がある方がいる家庭に対し、ヘルパーを派遣し、日常生活の支援を行った。令和7年10月31日事業休止、令和8年3月31日事業を廃止した。

・年間延べ利用者数	1,452名	(3,103名)
・年間実利用者数	161名	(420名)
・年間活動日数	159日	(299日)
・利用者平均年齢	85.6歳	(86.1歳)
・平均介護度	要介護 1.4	(1.6)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均延べ利用人数	17名	9.1名	10.4名

##### イ 介護予防・日常生活支援総合事業（公益事業）

要支援者・事業対象者で日常生活に支障がある方に対して、日帰りで各種サービスを提供するホームヘルパーを派遣し日常生活を支援する「訪問介護相当サービス」を行った。令和7年10月31日事業休止、令和8年3月31日事業を廃止した。

・年間訪問相当延べ利用者数	577名	(1,872名)
・年間訪問相当実利用者数	92名	(333名)
・年間訪問相当実施日数	159日	(299日)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
月平均実利用者数	30名	13.1名	27.8名

#### (5) 居宅介護支援事業（公益事業）

令和6年度と比較して令和7年度はケアマネジャーが1名減員となり、4名のケアマネジャーが稼働しケアプランを作成した。稼働日数は8月1日から土曜日営業がなくなったため、年間で258日となっている。

・年間ケアプラン給付管理者延べ数	1,680件	(2,103件)
・ケアマネジメント延べ数	74件	(108件)
・ケアプラン新規作成者	68名	(76名)
・平均介護度	要支援 1.45	(要支援 1.62)
	要介護 2.06	(要介護 2.05)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
月平均件数	190件	146.2件	184.3件

#### (6) 地域包括支援センター運営事業（公益事業）(委)

静岡市からの受託事業として、西豊田、東豊田、東源台小学校区の高齢者及び地域住民からの相談解決のために制度やサービスを紹介し、関係機関等につないだ。

また、介護保険要支援認定者等の予防プラン作成や支援困難ケースの解決のために、関係機関や自治会、民生委員との連携を図り、地域ケア会議を開催した。

・年間延べ総合相談者数	2,999名	(2,656名)
・介護予防支援	3,694件	(3,770件)
内訳		
(直営)	520件	
(委託)	3,174件	
・介護予防ケアマネジメント	2,173件	(2,221件)
内訳		
(直営)	439件	
(委託)	1,734件	
・年間活動日数	242日	(243日)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
月平均数	410名	488.9名	499.3件

#### (7) 奨学金貸与事業（公益事業）

奨学金を貸与した外国人1名が令和4年度から当苑で勤務している。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間貸与延べ人数	1名	0名	0名

#### (8) なでしこプラン

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
周知啓発活動（小鹿苑カフェ）	240名	387名	330名
高齢者等緊急受け入れ事業	3名	0名	0名

月別 利用者（件）数

区分	特養		短期		デイサービス		通所相当		ホームヘルパー		訪問相当	
	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数
4月	81	2,343	31	375	42	470	3	22	26	203	15	92
5月	82	2,368	29	387	34	456	4	26	25	227	16	99
6月	80	2,325	29	380	35	436	4	22	24	216	17	105
7月	81	2,457	31	439	39	461	3	21	24	233	17	115
8月	82	2,412	24	369	37	481	3	22	23	216	17	108
9月	78	2,258	24	323	41	491	4	25	22	212	7	42
10月	79	2,284	20	221	41	513	4	22	17	145	3	16
11月	79	2,227	19	303	43	479	5	28	/	/	/	/
12月	82	2,401	24	323	43	466	5	28				
1月	81	2,448	25	395	43	440	5	23				
2月	80	2,197	25	299	45	452	6	42				
3月	82	2,399	20	231	47	467	7	34				
合計	967	28,119	301	4,045	490	5,612	53	315				
月平均	80.6	2,343.3	25.1	337.1	40.8	467.7	4.4	26.3	23.0	207.4	13.1	82.4
1日平均	77.0		11.1		18.3		/		9.1		/	
					19.3				12.8			

区分	居宅		居宅総合	地域包括				包括総合	
	支援件数	介護件数	ケアマネジメント	直営	委託	相談実数	相談延べ数	直営	委託
4月	25	106	5	46	255	126	286	40	134
5月	25	108	5	43	278	123	222	42	151
6月	24	112	5	45	244	130	242	40	153
7月	25	114	5	48	255	134	264	41	151
8月	25	115	5	45	259	117	235	40	144
9月	25	108	6	41	266	121	260	41	146
10月	25	114	7	40	262	126	250	35	152
11月	26	118	7	36	269	118	231	33	149
12月	27	121	6	41	280	117	228	34	140
1月	26	119	6	43	278	143	281	31	137
2月	25	119	7	48	266	104	225	32	136
3月	26	122	10	44	262	135	275	30	141
合計	304	1,376	74	520	3,174	1,494	2,999	439	1,734
月平均	25.3	114.7	6.2	43.3	264.5	124.5	249.9	36.6	144.5
1日平均	6.5		0.3	15.3		12.4		9.0	

## 12 小鹿なでしこ苑

### 基本理念

あなたがあなたらしく 私が私らしく  
～ユニット環境を生かして、個性豊かな生活を支援します～

### 令和7年度目標

#### 目標1 本人、家族に寄り添った思いやりのある介護サービスの提供

- ・さらなる生産性の向上に努め、介護の質を向上させる。

#### 結果（業務効率化による直接処遇時間の創出）

- ・12月に勤務表自動作成ソフトを導入したことにより、ユニットリーダー等が作成業務のために現場を離れる時間を、1ヵ月あたり従来の50%（約16時間）削減した。

#### （ICT活用による人材育成と情報集計の最適化）

- ・職員のスキルアップを目的として、4月よりオンライン動画研修サービスの運用を開始した。パート職員を含む全職員が、それぞれの習熟度に合わせた研修を適時受講できる環境を整え、サービス品質の均一化を図っている。また、職員および利用者アンケート等にGoogleフォームを活用することで、集計作業の工数を大幅に削減した。あわせて、ペーパーレス化による印刷コストの抑制も実現している。

#### （外部資源の活用による介護業務の重点化）

- ・介護員が専門性の高い業務に専念できる環境を整備するため、入居者のレクリエーション等への有償ボランティアおよび業務委託を積極的に活用する。

#### （1年後の利用満足度調査での結果を向上させる）

- ・令和8年1月に利用者満足度調査を行った結果、令和8年1月より開始した公式LINEから「食事や生活の様子が見えるようになった」と高い評価を得ており、施設運営の透明化が着実に進展している。引き続き情報の見える化を徹底し、満足度のさらなる向上を図る。

#### 目標2 職員一丸となり新たな加算を取得していく

- ・情報提供や研修会への参加を促し、加算に対する職員の意識を高める。

結果・運営会議での継続的な説明により、現場リーダー層の意識が変容。これがショートステイの稼働率向上や、医療依存度の高い利用者の受入れ拡大といった具体的成果に直結した。

#### （各種加算の取得状況）

算定済み・精神科医療指導加算：令和7年11月より算定開始。

- ・生産性向上推進体制加算(Ⅱ)：令和7年4月より算定開始。

令和8年4月より算定開始予定

- ・認知症チームケア加算：委員会での準備完了。介護ソフト入れ替えに合わせて開始。
- ・協力医療機関連携加算 / 高齢者施設等感染対策向上加算：重要事項説明書の改定を経て開始。

#### 今後の取得計画と課題

- ・認知症専門ケア加算(Ⅰ) 算定にはリーダー研修修了者が6名必要（現在5名）。令和8年度に3名が研修受講予定であり、12月の修了を待って速やかに算定を開始する。

- ・**栄養・経口関連加算（栄養マネジメント強化 / 経口維持）** 管理栄養士及び歯科衛生士の確保に至らず、現時点では算定を見送り。今後も専門職の採用に注力し、体制構築を目指す。

### 目標3 安心できる防災対策

- ・甲種防火管理者（国家資格）及び防災士の資格取得から防火・防災に対する意識を高める。

**結果**・甲種防火管理者講習1名、防災士も1名が受講と防災、減災に対する意識は全体的に高まってきている。

- ・地域の協力を得ながらより実践的な防災訓練を実施した。
- ・7年度も消防署および地域住民が参加する合同訓練を継続した。感染症対策を組み込んだ研修等も実施しているが、実践レベルの向上には依然として課題が残る。今後はより実効性の高い訓練内容への深化を図る。
- ・静岡県災害派遣福祉チーム（静岡DWAT）登録員を増やした。
- ・今年度は静岡DWAT隊員として2名を追加し、現在4名が登録。まだ実際の災害派遣はないが、研修サポートへは複数回参加した。

### 目標4 新たな公益的な取組みの実践

- ・地域で認知症の人やその家族に対して、できる範囲で手助けする「認知症サポーター」についての養成講座の開催に必要な資格を取得する。

**結果**・施設内の認知症ケア委員の職員や、「かけこまち七間町」（静岡市認知症ケア推進センターの愛称）の方と一緒に養成講座を行った。

- ・防災士資格を取得し、「防災×福祉」の出前講座を開催する。
- ・防災士を取得したが、防災関係の出前講座はまだ行えていない。
- ・地区社協と共に地域交流室にて健康マージャン等を定期的に開催する。
- ・地区社協との連携による「健康マージャン」の開催には至らなかったが、代替施策としてボランティアグループ「チクチクの会」を立ち上げた。入居者の衣類修繕等を通じ、地域住民との新たな交流および活動拠点の形成を推進した。

入居者一人ひとりの暮らし方を尊重した支援をします。また、施設機能を生かし地域に貢献します。

#### (1) 特別養護老人ホーム事業（一種事業）（定員 96 名）

常時介護を必要とし、自宅で生活することが困難な要介護高齢者に対し、適切な健康管理のもとに、家庭生活に近い施設サービスを提供する。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均在所者数	94名	91.6名	89.7名

- ・実績見込94名と目標値を達成
- ・6年度に比べ、次の方が入所するまでの空床期間も大幅に短縮されている。

#### (2) 老人短期入所事業（二種事業）（定員 13 名）

要支援及び要介護高齢者を介護している家族が病気等で在宅介護が出来ない場合に、高齢者に短期間入所いただき、本人及び家族の福祉の向上を図る。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用者数	3名	1.6名	0.50名

**結果**・令和5年度・6年度の利用実績は僅少であったが、組織内に「断らない姿勢」が定着したことで、行政からの信頼も向上した。保護ベッドの担当期間（3カ月）経過後も継続して行政から相談が寄せられるなど、地域のセーフティネットとしても認知されつつある。

### (3) 奨学金貸与事業（公益事業）

外国人を含めた低所得者等の学生に対し奨学金を貸与することで、教育と就労機会の提供を行うとともに、本支部における医療・福祉人材の確保を図る。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間貸与者実人数	1名	0名	0名

**結果**・多額の施設負担に対し、5年経過後の定着率が不透明であることや、言語・文化の壁による現場負担の増大が課題となっている。これを受け、現場の受容性が高い「県内養成校からの実習生の確保」から「実習から採用への直結ルート」の強化の検討としたい。

### (4) その他事業（なでしこプラン）

次年度においては、防災士と認知症サポーター養成の資格を取得し、出前講座に繋がりたいと考えている。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
年間延べ人数	3,860件	※3,866件	1,357件

（目標内訳：3,332名、328回、200着、実績内訳3,312名、319回、235着）

（※「Sデイ・カフェ・サロンの支援」6年度は参加回数としていた目標値を7年度から参加人数に変更）

**結果**・コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置により、地域連携実績は大幅に伸展した。この取組を通じ、介護職員の間でも地域貢献への関心が高まり、リーダー層からも職員を積極的に地域へ派遣したいとの意向が示されるなど、組織的な意識改革が進んだ。

令和8年度、CSWは支部事務局配置となるが、この高まった機運を生かし、介護職員を地域活動へ派遣する機会を創出する。また、防災士および認知症サポーター養成資格の取得を推進し、出前講座の実施等より専門性の高い地域貢献活動へと繋げていく。

### 月別利用者数

単位：名

	特養		短期			特養		短期	
	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数		実人数	延べ人数	実人数	延べ人数
7年4月	95	2,742	1	18	10月	96	2,867	3	38
5月	94	2,899	1	17	11月	95	2,800	2	56
6月	97	2,819	0	0	12月	94	2,826	3	46
7月	96	2,895	2	26	8年1月	93	2,741	3	85
8月	96	2,907	3	56	2月	92	2,443	3	84
9月	96	2,843	2	60	3月	92	2,643	3	92
					合計		33,425		578
					一日平均	—	91.6	—	1.6

**基本理念**

「あなたらしさを応援します」

～人権を尊重し、日々有効なサービスを展開します。そして常に生活の豊かさを求めます。～

**令和7年度目標及び結果****1 利用者の豊かな生活の支援**

- ・コロナ禍で中断、縮小となっていた外部サービス（外出支援、ボランティア、訪問販売など）を積極的に取り入れ、利用者の豊かな生活をサポートする。
- ・利用者満足度の高い、安心安全なサービスの提供と日中活動の充実を図る。

**結果** 外部サービスの活用により、日本平動物園の休園日観覧、サーカス鑑賞、音楽コンサートなどに参加することができ、利用者の笑顔も見られた。パンの訪問販売、訪問リンパマッサージが定着し、外出が難しい利用者にも楽しみや安らぎの場を提供した。新茶、スイカ、イチゴなどを用いたイベントも開催し、生活に彩りを取り入れた。静岡マラソン車いすの部への参加を希望する利用者について、登録手続き、体調管理、当日の伴走や完走までサポートした。

**2 地域に開かれた施設**

- ・地域の行事（内牧大茶会、内牧桜ウオーク大会など）に積極的に参加するとともに、秋桜祭、防災訓練、地域連携推進会議などの開催により、町内会をはじめとした地域との連携を深める。

**結果** 地域の行事へ従前のように参加できるようになり、より多く地域住民や家族との交流の機会を設けることができた。地域連携推進会議の開催により、施設の運営や、利用者の生活、職員の就業環境の現状を知っていただくなど、施設に対する理解を深める場となった。医療的ケア児の防災キャンプ会場として施設の一部を提供し、関係者に加え行政や地域住民も交えた100名近い参加があり、地域の防災拠点としての役割を担うとともに、皆で防災の在り方を再認識する機会となった。

**3 施設の安定的な運営**

- ・施設の良さや強みを対外的にアピールし、新規利用者の獲得や利用率の向上を目指す。
- ・経費の有効的な活用により、利用者の満足度が高く、職員も働きやすい環境を整えるよう、効果的・効率的な運営に努める。
- ・職員の利用者支援に関するスキルアップのため、研修体系を整え、キャリアに応じた研修の受講機会を充実させる。

**結果** 条例改正により、通所の利用者範囲が療育手帳交付者まで拡大した。新規利用者について、年度初めに特別支援学校への訪問、相談支援事業所連絡会への参加などを行ったものの、従前の手法に留まり十分な利用に繋がらなかったため、新たな手法の検討が課題として残った。LED化、腰壁の改修、網戸設置、職員休憩室の改修、空調更新（城北館）などハード面の整備を進め、利用者・職員双方の環境の改善を図った。経費の見直し・削減の努力や市から負担金の獲得により、昨年度に比べ安定的な運営となっている。職員のスキルアップやモチベーション向上に資するよう、外部研修の機会を増やした。

(1) 障害者支援施設（一種事業）（施設入所支援 50 名、生活介護 80 名）・・・指

ア 施設入所支援（定員 50 名）、生活介護（入所）（定員 50 名）

施設入所支援は、入退院を繰り返す利用者が多く延べ入院日数が 325 日となったものの、退所者が少なかったため、昨年度実績を上回る結果となった。生活介護（入所）は、日中活動の場として、外部の日中活動サービスを定期利用する入所者が 3 名おり、昨年度実績を下回る結果となった。

- ・新規入所者数 2 名 ( 6 名)
- ・退所者数 2 名 ( 6 名)
- ・延べ利用者数 施設入所支援 17,901 名 (17,767 名)  
生活介護 12,645 名 (12,671 名)

一日平均利用人数	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
施設入所支援	49.8 名	49.1 名	48.7 名
生活介護	49.8 名	48.5 名	48.6 名

疾病別人員 令和7年4月1日～令和8年3月31日

病 名	実人員 (名)	構成比 (%)
脳血管障害	3	5.7
脳性麻痺	20	38.5
脳外傷 (頭部外傷)	7	13.5
脊髄損傷	5	9.6
頸髄損傷	3	5.7
下肢機能障害 (上記以外)	7	13.5
特定疾病 (難病等)	4	7.7
その他	3	5.8
計	52	100.0

平均年齢	平均入所期間	平均障害支援区分
59.0 歳	12 年 6 か月	5.50

月別利用者数 (入所支援日数 365 日・生活介護日数 261 日) 単位:名

	入所支援		生活介護			入所支援		生活介護	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数		人数	延べ人数	人数	延べ人数
7 年 4 月	50	1,476	50	1,076	10 月	50	1,540	50	1,127
5 月	50	1,534	50	1,080	11 月	50	1,490	50	981
6 月	50	1,427	49	993	12 月	50	1,543	50	1,129
7 月	50	1,456	49	1,063	8 年 1 月	50	1,542	50	1,079
8 月	50	1,513	49	1,012	2 月	50	1,370	50	968
9 月	50	1,489	50	1,075	3 月	50	1,521	50	1,062
					合 計		17,901		12,645
					一日平均	—	49.1	—	48.5

## イ 生活介護(通所) (定員 30 名)

退所者が2名あったものの、12月から週5日の新規利用者2名が(短期入所併用)おり、昨年度実績をわずかに上回る結果となった。特別支援学校への訪問(利用者範囲変更の周知)により、特別支援学校からの見学者・実習生は増えている。

- ・実利用人数 30名 (34名)
- ・新規利用者数 2名 (3名)
- ・退所者数 2名 (4名)
- ・年間延べ利用者数 4,059名 (3,967名)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用人数	24.5名	16.8名	16.4名

### 月別利用者数 (年間開所日数 242日)

単位:名

	実利用人数	延べ人数		実利用人数	延べ人数
7年4月	30	325	10月	29	365
5月	30	346	11月	28	299
6月	30	346	12月	30	357
7月	30	369	8年1月	30	319
8月	29	330	2月	30	311
9月	28	316	3月	30	376
			合計	--	4,059
			一日平均	--	16.8

## (2) 日中一時支援事業(公益事業) [生活介護(通所)空床利用] ⑤

日中における一時的な見守り、その他の支援を必要とする障害者に対し、送迎・入浴・食事のサービスを提供する事業であるが、利用者はなかった。

- ・実利用人数 0名 (0名)
- ・年間延べ利用者数 0名 (0名)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用人数	空床利用	0名	0名

## (3) 障害福祉サービス事業(短期入所)(二種事業) 定員5名 ⑥

新規利用者の昨年度並みの受入れと、12月から長期間の継続利用者2名により、昨年度実績を上回る結果となった。

- ・実利用人数 31名 (27名)
- ・新規利用者数 5名 (6名)
- ・退所者数 4名 (3名)
- ・年間延べ利用者数 1,010名 (845名)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用人数	4.0名	2.8名	2.4名

月別利用者数 (年間開所日数 365日) 単位:名

	日中一時		短期入所			日中一時		短期入所	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数		人数	延べ人数	人数	延べ人数
7年4月	0	0	10	84	10月	0	0	12	51
5月	0	0	14	95	11月	0	0	15	64
6月	0	0	8	73	12月	0	0	11	109
7月	0	0	9	90	8年1月	0	0	12	111
8月	0	0	9	71	2月	0	0	11	100
9月	0	0	10	49	3月	0	0	13	113
					合計	0	0	134	1,010
					一日平均	—	0	—	2.8

(4) 静岡市桜の園城北館 障害福祉サービス事業(生活介護)(二種事業)定員20名(指)

静岡市心身障害者ケアセンターからの自立訓練終了者の紹介、施設入所者の定期利用開始など、新規利用者の増で、昨年度実績を上回る結果となった。特別支援学校への訪問(利用者範囲変更の周知)により、特別支援学校からの実習生を受け入れることができた。

- ・実利用人数 21名 (19名)
- ・新規利用者数 2名 (3名)
- ・退所者数 1名 (0名)
- ・年間延べ利用者数 3,187名 (2,976名)

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用人数	14.0名	13.2名	12.3名

月別利用者数(年間開所日数 242日) 単位:名

	実利用者数	延べ人数		実利用者数	延べ人数
7年4月	19	274	10月	19	289
5月	19	271	11月	19	232
6月	19	269	12月	19	265
7月	19	294	8年1月	20	245
8月	19	267	2月	20	240
9月	19	261	3月	20	280
			合計	--	3,187
			一日平均	--	13.2

(5) その他の事業（なでしこプラン）

ア 障害者緊急受入れ事業

生活困窮等の状況にある障害者を緊急で受け入れ短期入所サービスを提供する事業であるが、受け入れがなかった。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
緊急受け入れ数	2名	0名	0名

イ 少年院在院生奉仕活動受入れ事業

駿府学園（第1種・第5種少年院）が在院生の教育指導の一環として実施する地域奉仕活動の受け入れを行った。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
奉仕活動受け入れ数	16名	22名	23名

## 14 静岡市心身障害者ケアセンター

### 基本理念

私たちは、あなたと社会をつなぎ、あなたの自立生活を応援します。

### 令和7年度目標及び結果

#### 目標1 利用者ニーズに基づいた良質なサービスの提供

- ・利用者ニーズに基づいた個別支援計画の作成と充実した支援の提供を目指す。
- ・理学療法士等と連携し、より専門性を目指した訓練の提供を目指す。

**結果** 利用開始前より丁寧な相談、アセスメントの実施、利用終了後を見据えたニーズに沿った個別支援計画書の作成に心がけた。

機能訓練では、理学療法士・作業療法士による訓練、あんまマッサージ指圧師による施術、サービス管理責任者が作成する個別訓練（体感機能の維持・向上、柔軟性、体重の減少、下肢機能強化等）を実施した。

生活訓練では、買い物訓練、歩行訓練、作業訓練、SST(社会生活技能訓練)等を実施した。

#### 目標2 経営の安定化

- ・営業に力を注ぐ。(相談事業所・地域包括支援センター・病院・特別支援学校等)
- ・相談から契約までの方法を分析し、確実に新規利用につなげる。
- ・新規利用者のニーズに合わせた柔軟な受け入れ態勢を整える。

**結果** 7年度はこれまで積み上げてきた相談事業所や病院関係、グループホーム等による紹介が多く、関係機関との関係性の構築、利用者対応を評価された結果となった。

訓練のみの利用、半日利用など利用者のニーズに沿った柔軟な受け入れを実施した。

#### 目標3 安全で安心できる場の提供

- ・人権を尊重・配慮した対応、虐待防止の徹底を目指す。
- ・変化する自然災害・感染症への対策に努める。

**結果** 施設内で実施する研修等による職員教育を実施し人権を尊重した虐待のない施設を目指した。

BCP研修・訓練、防災訓練の実施を通じ自然災害・感染症への意識を再認識することができた。

#### 目標4 地域との交流・連携・人材育成

- ・地域で開催する催しへの積極的な参加、施設で開催するヨガ教室等への地域住民の積極的な受け入れをしていく。
- ・地域防災に参加し、顔のわかる関係性の構築を図る。
- ・静岡市社会福祉協議会と連携し、ボランティア受入、講師派遣、福祉体験等の積極的な受け入れを通じて地域に貢献する。
- ・実習生を広く受け入れ人材育成に貢献する。
- ・広報誌、ホームページ、『済生』への積極的な投稿等、広報活動に努める。

**結果** 例年同様に地域で開催する作品展への出展、複合棟内で開催されるイベントへの参

加、施設内で実施するヨガ教室への地域住民の参加等積極的に実施した。特に昨年の夏から秋にかけて事業所内の庭にある畑を活用したさつまいもの育成、収穫には多くのボランティアさん、複数の事業所さんと連携し実施することができた。

昨年度より社会福祉士実習指導担当が不在となったため事業所としては受け入れができなかったものの隣接する相談支援センター済生会じょうとうの実習生の受け入れ、看護学生の受け入れを実施した。福祉体験・福祉教育（市社協からの依頼）は例年通り受け実施した。

広報誌（年3回）済生（2件）ホームページ更新（月1回）実施し地域への発信を行った。

静岡市心身障害者ケアセンターは、静岡市の指定管理者として自立訓練（機能訓練・生活訓練）を実施し、サービス支給期間が終了した後、継続利用を希望する方については、空席利用として日中一時支援事業を提供した。

指定管理5期1年目にあたる令和7年度も利用者の生活に即したサービスの提供に努めた。

### （1）障害福祉サービス事業・・・指

#### ア 自立訓練（機能訓練）（二種事業）（定員20名）

利用者が自立した地域生活を営むことができるよう、身体、生活能力の維持向上に必要な訓練、便宜等を適切かつ効果的に行うため、理学療法士、作業療法士等専門職による訓練を実施した。

区 分	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用者数	14.0名	13.3名	10.1名

#### 月別利用者数

（年間開所日数242日）

区 分 年 月	機能訓練		区 分 年 月	機能訓練	
	実人員(名)	延べ人数(名)		実人員(名)	延べ人数(名)
7年4月	28	234	8年1月	40	294
5月	30	249	2月	36	259
6月	32	277	3月	35	284
7月	31	288	合 計		3,211
8月	32	244	月平均		267.6
9月	34	249	一日平均		13.3 (10.1)
10月	35	283			
11月	37	244			
12月	39	306			

#### イ 自立訓練（生活訓練）（二種事業）（定員10名）

生活訓練の利用者は、地域生活や環境面での困難さを抱えて生活されている方等、障害特性による配慮の必要な方が利用された。

区 分	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用者数	10名	8.3名	7.1名

月別利用者数

(年間開所日数 242 日)

区 分		生活訓練		区 分		生活訓練	
年 月	実人員(名)	延べ人数(名)	年 月	実人員(名)	延べ人数(名)		
7年 4月	13	145	7年 1月	15	169		
5月	12	144	2月	17	158		
6月	12	151	3月	17	198		
7月	13	149	合 計		1,997		
8月	15	169	月平均		166.4		
9月	16	169	一日平均		8.3		
10月	17	196			(7.1)		
11月	16	162					
12月	16	187					

(2) 日中一時支援事業 (公益事業) (空席利用) ・ ・ ⑤

事前予約性にて自立訓練終了後、利用希望の方を受け入れた。

区 分	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用者数	3.0名	2.3名	2.5名

月別利用者数

(年間開所日数 242 日)

区 分		日中一時支援		区 分		日中一時支援	
年 月	実人員(名)	延べ人数(名)	年 月	実人員(名)	延べ人数(名)		
7年 4月	10	52	8年 1月	9	34		
5月	10	51	2月	9	30		
6月	10	54	3月	8	40		
7月	11	57	合 計		546		
8月	11	48	月平均		45.5		
9月	11	50	一日平均		2.3		
10月	11	51			(2.5)		
11月	11	40					
12月	9	39					

(3) その他の事業 (ソーシャルインクルージョン推進計画)

住民同士等が交流できる機会や場所を創出し、共に地域社会の構成員として支え合う。(近隣自治会、市社協、子育て支援センター等への参加を仰ぎながらヨガ教室の開催等)

区 分	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用者数	3名	5名	—名

## 15 ワーク春日

### 基本理念

明るく楽しく働くあなたを応援します。

### 令和7年度目標及び結果（就労継続B型事業所）

#### 目標1 経営の安定を目指す

- ・ 広報活動、営業に力を入れ、一日の利用者数を確保する。
- ・ 就労支援事業の受注の確保や拡大に努める。

**結果** 登録者31名の中で、毎日通われている方は半数程度である。また、以前より通われている方の中には65歳を超える方も数人いる状況である。入院する方や体調を崩す方も多く、毎日利用することが難しくなっている。そのため、一日の利用者の目標数を確保できなかった。

軽作業の受注は増えたが、印刷業務に関しては、受注が減り昨年度を下回る事となった。

#### 目標2 点字印刷作業の拡大

- ・ 点字印刷ができることを宣伝するとともに、広報誌以外の点字作業を請け負う。
- ・ 静岡市の広報誌の点字版を請け負う。

**結果** 点字印刷に関わる正規職員を2名体制にすることができ、「広報しずおか点字版」を再度請け負うことが可能になった。今後も、点字印刷ができる施設ということを宣伝するとともに、作業を請け負っていく。

#### 目標3 就労移行支援の体制を整える。

- ・ 一般就労を望む利用者に対して、就労に必要な知識及び能力が向上できるように支援する。
- ・ 利用者個々の社会参加を支援し、就労ニーズに応える様、社会資源を開拓し自立に向けた援助を実施する。
- ・ 半年間の就労移行を行い、翌年の就労移行支援体制加算取得を目指す。

**結果** 利用者1名を有期職員として障害者雇用したことにより就労移行の実績となった。

一般就労を望む利用者に対して、静岡済生会総合病院人事課にも協力をお願いし、病院での実習を行った。それにより、職員も一般就労移行の問題点等を把握することができ、今後は、一般就労への支援体制を整えるとともに、職員は就労移行支援のスキルを身に付けていく。

**(1) 就労継続支援事業B型（二種事業）（定員 30 名）**

利用者の高齢化もあり、毎日通所する利用者は減ってきている。新規の利用者は4名入所したが、引っ越しや入院などで4名の利用者が退所し（うち1名は5月に退所し、また10月に再入所）登録者数に変わりはない。

就労移行支援1名実績があるため今後も継続し、一般就労へと繋げることにより新たな利用者の確保に努めていきたい。

点字印刷、軽作業についての受注は増えているが、印刷業務に関しては職員の体調不良等により受注は減ることとなった。専属職員が退職予定のため7年度をもって印刷業務は行わないこととした。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用人数	26.5名	24.5名	24.3名
平均工賃月額	—	19,276円	21,690円

※7年度は加算が取れなかったため、平均工賃に2,000円の上乗せ無し。

●月別利用者数

(名)

	利用登録者数	新規利用者数	退所者数	開所日数	利用延べ人数	一日平均利用者数
令和7年 4月	31	1	1	21	515	24.5
5月	31	0	1	20	481	24.1
6月	30	0	0	21	503	24.0
7月	30	1	0	22	538	24.5
8月	31	0	0	19	454	23.9
9月	31	0	0	20	470	23.5
10月	31	1	0	22	557	25.3
11月	32	0	1	18	441	24.5
12月	31	0	0	20	495	24.8
令和8年 1月	31	1	0	19	479	25.2
2月	32	0	0	18	440	24.4
3月	31	0	1	21	515	24.5
合計	---	4	4	241	5,888	24.5

●障害別利用者数（名）

令和7年4月1日～令和8年3月31日

		男	女	合計	(備考)
身体障害	視覚	2	7	9	知的との重複1名
	肢体不自由	10	3	13	
	内部	1	1	2	
知的障害		4	3	7	身体との重複1名
精神障害		2	1	3	
合計		19	15	34	5月の退所者が10月に再び入所

**(2) 福祉ホーム事業（二種事業）（定員6名）※5部屋**

5月より5部屋満室となり、現在も5名の方が入居中である。  
入居者が、安心して居住できる場所を今後も提供していく。

	令和7年度計画・目標	令和7年度実績	令和6年度実績
一日平均利用人数	4.0名	4.9名	3.3名

## 16 静岡済生会看護専門学校

### 基本理念

済生の精神にもとづき、対象となる人間を生命尊厳や個人が尊重されるかけがえない存在として捉え、それぞれの健康段階にある人に看護が実践できるような専門職業人を目指す。

### 令和7年度目標及び結果

**目標 1** 看護師としての基礎的能力の育成と、済生の理念を基にした看護が実践できる学生を育成する

**結果** 学校の魅力の情報発信を工夫し、学生確保に努めた。また、看護師としての基礎的能力の育成とともに済生の精神を養い、個別性に配慮しながら講義・実習を積み重ねた。

**目標 2** 看護師国家試験の全員合格を目指す

**結果** 教育目標に基づいた学年目標と年次の学びの積み上げを意識し、学習内容・方法を工夫して学生の学びの状況を踏まえた対応をした。結果、卒業生全員の看護師国家試験の合格結果が得られた。

**目標 3** 講義・演習・実習へと学生自身が学びを継続し、深めるよう、講義内容を工夫する。また、教育目標を達成できるよう臨床と協働する

**結果** 臨地実習における学びは講義と関連づけられ、効果的な学習となった。また、学生が看護師として成長していく看護観を育む機会となった。臨地の協力も得て、教育目標に掲げた看護に必要な知識・技術・人間性を養うことができた。

**目標 4** 教員の経験に応じた教育研修・臨床研修を行い、教育力の向上及び人材育成を図る

**結果** 専任教員になるための研修枠の拡大に取り組み、教員確保に努めた。経験に応じた研鑽を積み、将来の組織を見据えた役割を与えて人材育成に努めている。

**目標 5** 新カリキュラムに対応し実践してきた教育内容について、改正趣旨・教育理念・目的に照らし合わせ、評価・改善を図る

**結果** 卒業生の学びから見えてきた課題を受け、改正趣旨、教育理念・目標に基づき内容・時間数を見直し、教育課程の変更申請をした。引き続き学生の学びと教育内容の評価を継続していく。

(1) 学年別在籍者数 (定員 120 名)

区分	1 年次生	2 年次生	3 年次生	計
令和 7 年度実績	41 名	39 名	42 名	122 名
令和 6 年度実績	40 名	42 名	27 名	109 名

(2) 看護師国家試験結果 (名・%)

	令和 7 年度実績			令和 6 年度実績		
	受験者数	合格者数	合格者率	受験者数	合格者数	合格者率
静岡済生会看護専門学校	36	36	100.0	25	25	100.0
全 国 (新卒者+既卒者)	59,614	52,666	88.3	63,131	56,906	90.1

※ 令和 7 年度 全国(新卒者のみ)の合格率は 94.1%

(3) 卒業生の進路 (名)

区 分	令和 7 年度実績	令和 6 年度実績
済生会総合病院	32	25
その他県内病院	2	0
県 外 病 院	2	0
進 学	0	0
そ の 他	0	0
計	36	25

(4) 入学試験結果 (名)

区 分		令和 8 年度	令和 7 年度
受験者	推薦入試	34	27
	社会人入試	0	7
	一般入試	43	38
	計	77	72
合格者	推薦入試	24	23
	社会人入試	0	3
	一般入試	29	30
	計	53	56
入学者	推薦入試	24	23
	社会人入試	0	3
	一般入試	14	15
	計	38	41

**基本理念**

障害や疾病を持ち、地域で生活している人々に対して、住み慣れた地域で安心して「その人らしく心豊かな生活」ができるよう、温かく思いやりの心で質の高い看護を提供します。

**令和7年度目標及び結果****目標1 利用者の要望に沿い、安全、安心と信頼を得られる質の高い看護を提供する**

- ・所内での定期的な研修会企画・開催、外部研修・WEB研修・事例検討会への参加を促し、個々のスキルアップをめざす。
- ・利用者とスタッフの安全を第一に考え、感染対策、医療安全の周知徹底を促す
- ・所内での事例検討やカンファレンスを定期的に行い利用者の情報や問題の共有・解決を図る。
- ・介護サービス情報公表、インシデント、アクシデント報告の徹底を促す。
- ・接遇、看護者の倫理綱領、コンプライアンスの周知徹底を促す。

**結果 継続的な教育・研修体制の確立**

月毎に「法定研修」および「品質向上研修」の受講項目を定め、オンライン研修を活用することで全スタッフが計画的に受講を完了した。

地域の訪問看護ステーションとの事例検討会や、ステーション協議会主催の防災研修へ参加。看護の振り返りと多角的な視点での意見交換を通じ、実践力の強化を図った。

**看護の質向上と情報共有の徹底**

年次利用者満足度調査で得られた意見を訪問業務に反映。所内カンファレンスを定期開催し、情報の集約と課題解決を図ることで、チームとして統一した質の高い看護提供体制を維持した。

感染対策、医療安全、倫理綱領、コンプライアンスの周知に努め、利用者・スタッフ双方の安全を第一とした事業運営を継続している。

**目標2 利用者・地域のニーズを知り、関係機関、多職種との密接な連携を図る。**

- ・他機関、多職種との連携、同一法人においての多職種との連携を積極的に行う。  
(サービス担当者会議、退院前カンファレンスへの参加など)
- ・利用者満足度調査実施、分析。
- ・広報活動(毎月のおたより発行・年報の発行・出前講義など)。
- ・看護学生、新任訪問看護師、ケアマネジャー等実習の受け入れ。

**結果・地域・多職種連携と社会貢献の実績****多職種・法人内連携の深化**

退院前カンファレンス等へ積極的に参加し、済生会病院や小鹿苑ケアプラン部との強固な協力体制を構築。事例検討会の実施を通じ、利用者へ「医療と介護の連続性」による安心感を提供した。また、市内訪問看護ステーション間で共通の「災害時連携シート」を作成し、有事の支援体制を具体化した。

**広報活動と地域啓発の推進**

広報誌「おしかだより」の毎月発行や年報による情報公開を徹底。Instagram

による情報発信に加え、地域施設への手技指導や講演会（出前講座）を精力的に実施し、訪問看護の普及に努めた。

### 教育支援と国際交流

看護学生実習（3校）を受け入れ、全スタッフによる指導体制が高評価を得た。また、タイ王国の看護学生・教員による見学実習にも対応し、次世代育成と国際的な保健医療交流に貢献した。

### 目標3 健全で安定した運営をめざす

- ・年間訪問件数 17,500件（看護13,000件・リハビリ4,500件）を目標にする。
- ・毎月の所内会議で実績統計をスタッフ全員に周知し評価をしていく。
- ・残業時間の短縮、エコ活動で経費削減をめざす。

### 結果

#### 訪問実績および市場動向の分析

年間訪問件数は14,088件（目標比80.5%）となり、目標の17,500件に対し約3,400件の未達となった。背景および要因は以下のとおりである。

- ・**利用者の推移**：新規依頼については「断らない体制」を堅持し積極的に受理したが、退院先の施設移行や療養型病院への選択及び施設での看取りの増加に伴う終了者が新規数を上回り、全体件数の押し下げに繋がった。
- ・**市場環境の変化**：在宅看取り件数が減少傾向にあり、終末期ケアの場が在宅から施設へシフトしている地域動向が顕著となっている。

#### 改善に向けた取組と成果

- ・**営業活動の強化**：件数維持・回復に向け、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所への定期的な訪問、および広報チラシの配布による積極的な営業活動を展開した。
- ・**実績管理の徹底**：毎月の会議で、訪問件数や内訳、状況、個人の残業時間を可視化。スタッフ全員で実績数値を共有し、乖離に対する要因分析と対策の検討を継続的に実施した。

#### 業務効率化と経費削減

- ・**時間外勤務の圧縮**：労務管理の徹底により、全スタッフの月間平均残業時間は10時間以内を継続。安定した労働環境を維持している。

### 目標4 職場環境の充実を図り、人材の確保に努める

- ・有給休暇を計画的に取得できるようにし、有給消化率をアップさせる
- ・当番明けの勤務について必要時調整
- ・心身の健康やワークライフバランスの充実を図るため職場環境を整える
- ・定期的な個人面接の実施

### 結果 柔軟な勤務体制の構築

有給休暇の取得推奨および連休取得を可能とする環境整備に努めた。また、夜間対応等の業務負荷が生じた際は、翌日の勤務時間を調整するなど、心身のリカバリーに配慮した柔軟な労務管理を徹底している。

#### 対話を重視した職員支援

定期的な個人面接に加え、随時の聞き取りを通じて職員の意向把握に努めた。家庭環境の変化に応じた勤務形態の見直しや、産業医との連携による専門的な助言の活用など、個々の事情に即した包括的な両立支援を継続している。

## (1) 訪問看護事業実績

令和7年度は、介護保険、医療保険を含め訪問延件数は14,088件であり、令和6年度に比べ68件（介護保険247件減、医療保険183件増、その他4件減）減少。また訪問延件数のうち4,621件（5,385件）は、サテライトみかど台分である。

令和7年度間目標件数	17,500件	
令和7年度実績件数		(達成率80.5%)
介護保険延べ件数	10,868件	(11,115件)
医療保険	3,172件	(2,989件)
その他(実費訪問)	48件	(52件)
合計	14,088件	(14,156件)
月平均	1,174件	(1,179件)
1日平均	57.9件	(57.8件)

### 疾病別 令和7年4月1日～令和8年3月31日

病名	人員(名)	構成比(%)
神経系疾患	22	6.5
呼吸器系疾患	18	5.3
精神疾患	29	8.6
脳血管系疾患	25	7.4
骨格系及び結合組織疾患	21	6.2
悪性腫瘍	77	22.7
その他	147	43.3
計	339	100.0

### 月別訪問者数 (年間訪問日数243日)

年 月	取扱実人員(名)	延件数(件)
7年 4月	224	1,162
5月	220	1,144
6月	230	1,184
7月	228	1,258
8月	220	1,149
9月	226	1,193
10月	228	1,248
11月	217	1,066
12月	225	1,208
8年 1月	222	1,137
2月	220	1,068
3月	220	1,271
計	2,680	14,088
月平均	223.3	1,174
一日平均		57.9

### 年齢別性別訪問者数 令和7年4月1日～令和8年3月31日 (単位:名)

年齢性別	～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合計
男性	13	5	8	14	25	38	35	31	169
女性	12	8	4	8	19	17	34	68	170

	おしか	サテライト	合計
男性	113 名	56 名	169 名
女性	108 名	62 名	170 名
合計	221 名	118 名	339 名

